

令和4年度第1回二宮町総合教育会議

日時：令和4年5月26日(木)

13時30分から

場所：町民センター 2Aクラブ室

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 協議・調整事項
 - (1) 総合教育会議のテーマ設定について
 - (2) その他
- 4 閉会

総合教育会議テーマ

- 1 二宮町教育大綱の改定について
- 2 小中一貫教育について
- 3 今後の部活動のあり方について

令和4年度 総合教育会議の日程

回	日時	場所
第1回	令和4年5月26日(木) 13:30から	町民センター2階 2Aクラブ室
第2回	令和4年8月26日(金) 13:30から	町民センター2階 2Aクラブ室
第3回	令和5年1月27日(金) 13:30から	町民センター3階 3Bクラブ室

二宮町教育大綱

二宮町

平成27年10月 策定

平成31年 2月 改定

令和 5年 1月 改定

二宮町教育大綱

■ 大綱策定の趣旨

平成 26 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「法律」と言う。）」の一部が改正され、平成 27 年 4 月から新たな教育委員会制度がスタートしました。この制度の目的は、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携を強化することであり、これらを実現させるための方策の一つとして、地方公共団体の長による「当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定が位置付けられました。

二宮町の教育につきましては、町総合計画に基づき「二宮町教育委員会基本方針」を定め具体的な取組みを行っているところですが、法律の改正を受け、「大綱」として教育における町の方向性をわかりやすく示すことで、この明確な目標のもと、町長と教育委員会が今まで以上に連携し教育の推進に携わることとなります。

子どもから大人までが生涯を通じて共に学び、共に成長できるまちをつくるために、その指針として「二宮町教育大綱」を定めるものです。

■ 大綱の期間

~~平成 31 年度から平成 34 年度の 4 年間とします。~~

令和 5 年度から令和 9 年度の 5 年間とします。

これは、第 6 次二宮町総合計画前期基本計画の計画期間に連動し、見直しができるよう設定するものです。

■ 大綱の基本理念

町民一人ひとりの「まちづくりの力」、「地域の力」を活かした「共に学び共に育つ教育」を推進します

■ 大綱の基本方針

1 人権を尊重し合う心を育むとともに、自ら考え生きる力を育てます。

- 一人ひとりの人権を尊重し、豊かな人間性と社会性を育むとともに、自他の生命を大切にする教育を進めます。
- 子どもたち一人ひとりの発達段階に合せた確かな学力と、健やかな体力を養います。
- 地球的な視野で自ら考え主体的に行動できる、世界に羽ばたく人材を育てます。

2 落ち着いた学習環境と未来を見据えた教育環境づくりを進めます。

- 新しい時代に相応しい能力を身につけられるよう、児童生徒のより良い学習環境づくりに取り組みます。

⇒平成 30 年度改定時に追加した文言

- 地域社会とともに、子どもたちが安全・安心で快適に学べる教育環境づくりに取り組みます。
- 子どもたちの明るい将来を見据え、教育施設のあり方について検討を進めます。

3 町民が主人公となる、文化やスポーツなど生涯学習の振興を進めます。

- 活力ある地域コミュニティづくりのため、生涯学習や生涯スポーツの機会の充実に努めます。
- 生涯学習センター（ラディアン）や図書館など社会教育施設の充実に努めます。

二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会設置要綱

(設置)

第1条 二宮町小中一貫教育推進計画（令和4年4月策定）に基づき、施設一体型小中一貫教育校の設置に向けた研究を推進するため、二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会（以下「研究会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 研究会は、次の各号に掲げる事項について研究するものとする。

- (1) 施設一体型小中一貫教育校における教育の内容に関すること。
- (2) 施設一体型小中一貫教育校の方向性と学校形態に関すること。
- (3) 施設一体型小中一貫教育校の設置時期や場所、規模等に関すること。
- (4) 施設一体型小中一貫教育校又は義務教育学校の先進事例に関すること。
- (5) その他小中一貫教育の推進に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 研究会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学校運営協議会代表 各校2人（保護者1人及び地域関係者1人）
- (2) 小学校長代表 1人
- (3) 中学校長代表 1人
- (4) 有識者 2人
- (5) 教育委員
- (6) 教育長
- (7) その他教育委員会が適当と認める者

(任期)

第4条 会員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし、補欠の会員の任期は、前任者の在任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 研究会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、会員の互選により選出する。
- 3 会長は、会務を総括し、研究会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 研究会は、会長が招集し、議長となる。

- 2 研究会は、必要があると認めるときは、会員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 研究会の庶務は、教育委員会教育部教育総務課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、研究会の運営に関して必要な事項は、会長が研究会に諮って別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年5月1日から施行する。

二宮町小中一貫教育推進計画 (概要版)

二宮町教育委員会

令和4(2022)年4月

はじめに	1
二宮町小中一貫教育推進計画概要	2
（1） 目指す子ども像	2
（2） 小中一貫教育の目的	2
（3） 共通性と一貫性のある取組にする基盤づくり	2
（4） 小中一貫教育の具体的な取組	3
（5） 施設形態	3
（6） 設置年度	3
（7） 将来の施設一体型一貫校設置に向けての課題	3
（8） 今後の取り組みのスケジュールと方向性	4
（9） 二宮町小中一貫教育グランドデザイン	7

はじめに

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人々の予測を超えて加速度的に進展するようになっていきます。

また、少子高齢化や核家族化の急速な進行などによる地域コミュニティの弱体化や家庭における教育力の低下など、子どもをとりまく環境が様々に変化しています。

このような中、国においては平成 17(2005)年 10 月の中央教育審議会答申において、「義務教育を中心とする学校種間の連携・接続を改善するための仕組みについて、十分検討する必要がある」という趣旨の提言がされました。また、平成 19(2007)年 6 月に改正された学校教育法においては、各学校段階の目的・目標規定が改められ、新たに義務教育 9 年間の目標が定められました。

この流れを引き継ぎ、平成 27(2015)年 6 月に 9 年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立しました。平成 28(2016)年 4 月 1 日には改正学校教育法が施行され、小中一貫教育が制度として全国的に開始しました。

平成 31(2019)年 4 月には、文部科学大臣が中央教育審議会に対し、小・中・高校の教育のあり方について、小学校の教科担任制や小中一貫校の拡大を検討するよう諮問するなど、これからの小・中学校には大きな変化が求められています。

神奈川県においては平成 26(2014)年 7 月に「小中一貫教育校の在り方検討会議」を設置し、翌年 10 月に「神奈川県としてめざす小中一貫教育校の在り方 最終報告」をまとめるなどして、小中一貫教育の有効性や必要性を示しています。

二宮町教育委員会においても、平成 28(2016)年より、小中一貫教育の研究を始めました。子どもたちにより良い環境、より質の高い学校教育を提供するためのあり方について考えていく必要があると捉えています。

また、少子化が進む二宮町においては町の将来を支える人づくりが急務であり、小中一貫教育などの特色ある学校教育を進めることは、最終的には地域コミュニティを形成し、共生社会を作っていくことにつながると考えられます。

そこで、これまでの小中一貫教育に関する調査研究を基に、小中一貫教育として、今実現可能なことと、より発展的な小中一貫教育を行うための課題を明らかにした「二宮町小中一貫教育推進計画」を示すことといたしました。

二宮町小中一貫教育推進計画概要

(1) 目指す子ども像

小中一貫教育における目指す子ども像を次のように設定しました。

- ・自分の心と身体にまっすぐに向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども。
- ・多様な価値観を大切にし、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども。
- ・二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども。

(2) 小中一貫教育の目的

9年間を見据え、子どもの発達段階に応じたきめ細かい指導と、小学校と中学校が連携・協力して学習面や生活面での切れ目のない支援にあたり、主に次のことに取り組みます。

- ①主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」を育むための資質・能力を養う。
- ②9年間を見通したカリキュラムの編成による学習指導の改善から、児童生徒の学力向上を進める。
- ③小学校から中学校への接続を円滑にし、いわゆる「中1ギャップ」などの環境の変化により起こる状況を解消または小さくする。
- ④様々な課題を抱える児童生徒に対し、9年間を見据えた指導・支援を行う。
- ⑤将来を見据えて二宮町を支える人づくりと共生社会を作るための素地づくりに取り組む。

(3) 共通性と一貫性のある取組に資する基盤づくり

学びに向かう力・人間性の涵養や主体的・対話的で深い学びを通して資質・能力を育成するためには受容的で「誰一人取り残されない集団」が基盤となります。

「分からないときは、気軽に教えてもらえる学び合いの関係」「何を言ってもバカにされたり、冷やかされたりしない受容的な集団」「違い・個性・能力差を受け入れ、どの子も安心して過ごせる集団」は、小中一貫教育として9年間を見通した共通性と一貫性のある取組みにするための基盤として作り上げなければなりません。

(4) 施設分離型での小中一貫教育の具体的な取組

具体的には次のようなことに取り組みます。

- ①資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びの推進
- ②郷土を愛する気持ちを育むための探究的な活動の推進
- ③グローバル化に対応する英語教育の充実に向けた学びの推進
- ④6－3制に4【基礎定着期 小学1年～4年】・3【充実期 小学5年～中学1年】・2【発展期 中学2,3年】制のよさを取り入れた教育活動の推進
- ⑤豊かな人間関係を醸成する児童生徒の交流活動の充実
- ⑥特別支援教育の充実
- ⑦系統的・継続的な児童生徒指導の推進
- ⑧校種を超えた教職員の協働による授業力向上の取組の充実
- ⑨学校、家庭、地域が一体となった豊かな教育環境づくりの推進

(5) 施設形態

- 当面は既存の学校施設を使った施設分離型の小中一貫教育校とします。
- 小・中学校の組み合わせは、「二宮小学校・二宮中学校」（1小1中）と「一色小学校・山西小学校・二宮西中学校」（2小1中）とします。
- 将来の施設形態は施設一体型の小中一貫教育校か義務教育学校を描いていますが、第一弾として施設分離型の一貫教育校で一貫教育を行います。

(6) 設置年度

令和5年度に施設分離型の小中一貫教育校を2グループ設置します。

(7) 将来の施設一体型一貫校設置に向けての課題

- 教育委員会としては子どもたちにより良い環境においてより質の高い学校教育を提供するために、将来に向けて施設一体型の小中一貫教育校を1校開設することを推し進めたいと考えています。
- これまでの各種研究や町民との意見交換を踏まえ、施設一体型の一貫教育校の設置に向けた主な検討課題は次の通りです。

- ① 将来人口予想に対応した、学校の適正規模をどのくらいにするのか
- ② 場所(用地)はどこにするのか
- ③ 既存の学校施設を使う場合の増改築の規模
- ④ 通学距離が遠くなる児童生徒への対応
- ⑤ 二宮町公共施設再配置による学校施設統廃合の考え方との整合性
- ⑥ 既存のコミュニティ・スクールとの関係
- ⑦ 学童保育への対応
- ⑧ 増改築または新築にともなう財源問題
- ⑨ 施設一体型一貫校設置に向けた具体的なロードマップの作成
- ⑩ 施設一体型小中一貫校設置に関する周知
- ⑪ 設置案に対する費用対効果の検証 等

○実現に向け課題を整理検討した上で、新たに「施設一体型小中一貫教育校設置計画」を提示し、地域住民、保護者、町民との意見交換会や説明会を行い、多くの方々から理解と合意を得ることが必要と考えます。

(8) 今後の取り組みのスケジュールと方向性

これまでの取り組みを踏まえて、小中一貫教育校を実現させるための考え方を、次のように整理します。

- ・小中一貫教育を根付かせていくためには、成果を明らかにしていくことが重要であり、施設分離型小中一貫教育校から段階的に始めることが効果的であると考えます。
- ・学校に対する地域の方々の思いや意見は様々であり、小中一貫教育の成果を明らかにした上で、施設一体型小中一貫教育校に向けて、その思いや意見を丁寧にまとめていく必要があります。
- ・老朽化が進む学校施設について、長寿命化計画を踏まえた管理が必要であり、今後の児童生徒数の推移を見ていく中で、適切な時期を捉えての施設の統合、建て替えが考えられます。

これらの考えを基に、次のようなスケジュールで進めていきます。

令和4年度（2022年） 施設分離型小中一貫教育校スタートに向けた準備

2つの学校グループを設置

二宮中・二宮小グループ

二宮西中・一色小・山西小グループ

- ・ 9年間を見据えた小中一貫教育の教育目標に統一するほか、分離型で実施する内容を整理（学校組織、授業や行事の実施方法など）
- ・ 令和6（2024）年度以降、一色小学校児童で現在二宮中学校区に住んでいる児童については、二宮西中学校を進学先として選択できるように検討
⇒上記について、令和4（2022）年度中に保護者・地域に周知

令和5年度（2023年） 施設分離型小中一貫教育校スタート

- ・ 9年間を見通したカリキュラム研究に基づき、小・中学校の教員が連携して指導
- ・ すべての小・中学校が共通性と一貫性を持って、「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」を継続的に推進
- ・ 小・中学校間での交流の促進（例：オンライン交流や行事の共同開催など）
- ・ 6－3制に4【基礎定着期 小学1年～4年】・3【充実期 小学5年～中学1年】・2【発展期 中学2,3年】制のよさを取り入れた教育活動の推進
⇒分離型による取り組みは段階的に発展させていく

（将来的な施設一体型小中一貫教育校の設置に向けて）

施設分離型小中一貫教育を推進していく中で、中学校グループを基盤とした学校間の連携を強化していくとともに、施設分離型小中一貫教育の成果を把握して町民に提示し、将来的な目標である施設一体型小中一貫教育校の設置に向け、理解を深めていきます。

また、施設一体型小中一貫教育校の設置に向けて、令和4（2022）年度に教育委員や有識者、町内小・中学校の関係者による研究会を立ち上げ、様々な角度からの研究を行います。

(9) 二宮町小中一貫教育グランドデザイン

二宮町 小中一貫教育 グランドデザイン

令和4年3月22日現在
二宮町教育委員会

【二宮町の小中一貫教育】
小中一貫教育とは、小学校と中学校が共通した「学校教育目標」を掲げ、小学校6年間、中学校3年間という括りを取り払い、義務教育9年間の一貫したカリキュラムを作成し、系統性・連続性のある指導を行うものです。これまでの小中連携から一歩進んだ小中一貫教育を実施することにより次のようなことに取り組みます。

- 社会で通じる汎用的な資質・能力の醸成
- 郷土を愛する気持ちの醸成
- 英語力の向上
- 人間関係力の向上
- いじめの防止と不登校問題の解消



【小中一貫教育の目指す子ども像】

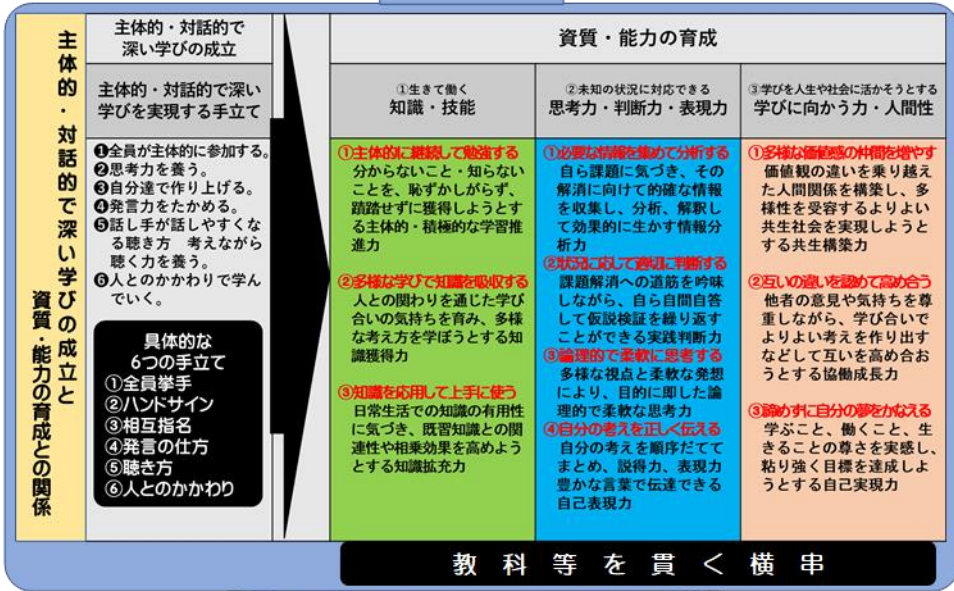
- ・自分の心と身体にまっすぐに向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども。
- ・多様な価値観を大切に、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども。
- ・二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども。

【実施形態】

- ◆中学校区ごとに実施します。
- ①二宮小・二宮中
- ②一色小・山西小・二宮西中
- ◆現在の学校施設を使っている施設分離型の一貫教育校です。

【9年間を見据えた小中一貫教育の教育目標】

認め合い、高め合う、二宮の子



※【中学校区における特色ある取組】
各中学校区において、目標の実現に向けた特色ある取組を実施します。

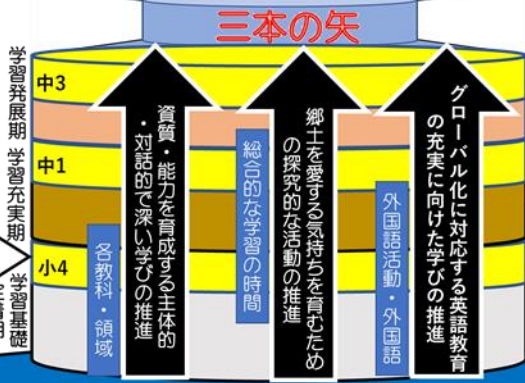
＜取組例＞

- ◇小小連携（二小一中）
- ◇小中連携
- ◇行事の交流
- ◇異学年交流
- ◇小中合同研修会
- ◇小学校教科担任制
- ◇出前授業
- ◇補充学習
- ◇部活動体験
- ◇たよりの発行

学習発展期 学習充実期 学習基礎 定着期

各教科・領域

共通性と一貫性のある指導・支援



9年間を見据えた連続性・系統性

【教職員の交流】

＜交流例＞

- ◇ワーキンググループ代表者会
- ◇コーディネーター担当者会
- ◇ワーキンググループによる教科・領域別ミーティング
- ◇小中による授業研究
- ◇異校種一日体験
- ◇異校種授業参観
- ◇各校務分掌での交流
- ◇希望する小学校教職員の部活動参加
- ◇インクルーシブ教育の推進

【児童・生徒の交流】

＜交流例＞

- ◇運動会や体育祭
- ◇文化祭
- ◇児童会・生徒会交流
- ◇中学の授業参観・体験
- ◇部活動体験
- ◇町主催行事、地域行事での交流

学級集団

学習集団

受容的な集団づくり
誰一人取り残されない集団づくり

読解力

保護者・地域との連携・協働

学校運営協議会において小中一貫教育への取組について協議し、保護者・地域との連携・協働した取組を実施する等、コミュニティ・スクールを基盤として小中一貫教育を推進します。

不登校傾向の児童生徒に対する校内支援の具体について

場所	形態	内容
校内	別室登校	<p>小学校の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校渋りの子が保護者とともに別室で過ごすこともある。登校時には、学級担任がかかわり、登校できたことを認め、無理のない範囲で学習をすすめるよう伝えている。心理教育相談員もかかわり、学習支援の具体について担任にコンサルテーションを実施。 ・保健室が校内の居場所の一つになっていて、養護教諭が対応をしている。また、保健室の隣にある会議室や教育相談室も児童が保護者や先生と個別に過ごせる部屋となっていて、養護教諭が対応できない時には管理職や教務主任や教育相談コーディネーター等が話を聞いたり、学習を見守ったりしている。教室に足が向く際には、担任が迎えに来る。母子分離に課題がある低学年の児童については、校内における児童と保護者のかかわり方について心理教育相談員からの助言等を踏まえた対応している。 ・会議室や相談室等の部屋が児童の居場所として機能していて、管理職や教育相談コーディネーターや教務主任や養護教諭や事務職員等が話を聞いたり、学習を見守ったりしている。また、学校職員が児童の特性や状況を踏まえて上で、温かい声掛けをして、安心して過ごせる空間づくりに努めている。教室に足が向く際には、必要に応じて保護者等も一緒についていく。 <p>中学校の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用の部屋(個別学習室)を用意 ・2校時～4校時まで開室 ・空きコマの教諭や特別支援非常勤の教諭が対応 ・複数ある学習室にて対応。 ・学級担任又は学年付の教諭が家庭と連絡をとって、生徒が学校に行く日を調整。学習室では一緒に話をしたり、学習に取り組んだりしている。登校時間等は本人の無理のない範囲としている。別室登校を重ねていくことで、段階的に次のステップにつなげていくことを目標としている。 <p>※必要に応じて、心理教育相談員が本人の見立てを行い、支援の方向性を学校や保護者と共有し、それを踏まえて学校は支援を実施している。また、SSW が状況に応じて関係機関への接続を行い、適切な支援が受けられるようにしている。</p>
	放課後登校	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後、学級担任等と話をしたり、学習をしたりする。 ・放課後登校して、部活動に参加する。
	自宅からの学習参加等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して自宅からオンラインで学習参加している。また、定期的に家庭や児童生徒とコミュニケーションをとっている。 ・自宅からオンラインで学習参加していないケースについても、学級担任は、家庭訪問、電話連絡やクラスルームを通じて児童生徒や保護者とコミュニケーションをとり、つながりを保っている。
	学校HPからの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・その日に行った学習情報をHPで発信。その情報が保護者と子どものコミュニケーションのきっかけになっている。 ・家庭内で人探しの話題に終始してしまうため、写真をあえて載せない。これにより、学校にとっても持続可能な取り組みになる。学校HPは、広く町民等に情報を周知するためだけでなく、不登校を防止するツールにもなっている。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言（案）について



スポーツ庁

1. 運動部活動の意義と課題

※ 5月下旬目途とりまとめ予定（公立中学校等における運動部活動を対象）

意義

- 生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。
- 参加生徒の状況把握や問題行動の抑制。学校への信頼感、一体感や愛校心の醸成。

課題

- 近年、特に持続可能性という面で厳しさを増しており、中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行。〈生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減、出生数：令和3年84万人〉
- 競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担。〈土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増〉
- 地域では、スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない。

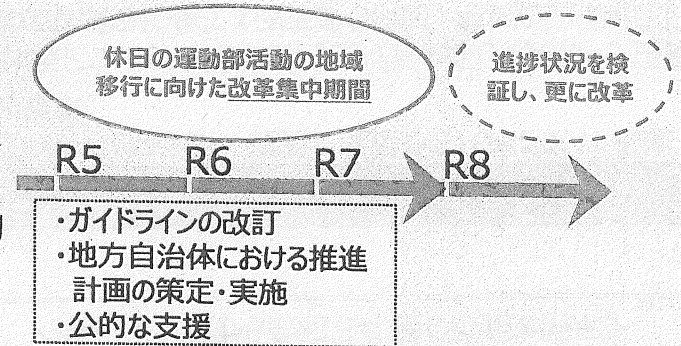
これまでの対応

- 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月）：学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める
- 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和2年9月）：令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図る
- 中教審や国会等：「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨指摘

2. 改革の方向性

- まずは、休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする。
（地域移行の目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途）
- 平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進。
- 受け皿となる、地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実、地域スポーツの振興についても、着実に取り組む。
- 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進。

※様々な事情を抱える学校現場や地域において運動部活動改革を推進するための「選択肢」を示し、諸課題を解決していくために「複数の道筋」があることや、「多様な方法」があることを強く意識



3. 運動部活動の地域移行に関する課題への対応

新たなスポーツ環境	・地域の実情に応じ、多様なスポーツ団体等が実施主体 ・特定種目だけでなく、生徒の状況に適した機会を確保	大会	・大会主催者に対し、地域のスポーツ団体等の参加も認めるよう要請 ・地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して支援
スポーツ団体等	・先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供 ・スポーツ振興くじ（toto）助成を含む多様な財源確保の検討	会費や保険	・困窮する家庭へのスポーツに係る費用の支援方策の検討 ・スポーツ安全保険が、災害共済給付と同程度の保障となるよう要請
スポーツ指導者	・指導者資格の取得や研修の実施の促進 ・部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク	学習指導要領等	・部活動の課題や留意事項等について通知、学習指導要領解説の見直し、次期改訂時の見直しに向けた検討 ・部活動から伺える個性や意欲・能力を入試全体を通じて多面的に評価 ・教師の採用で部活動指導の能力等を過度に評価していれば、見直す
スポーツ施設	・施設活用に係る協議会の設置、ルール策定・調整 ・スポーツ団体等に管理を委託		

※本提言は公立中学校等における運動部活動を対象とするが、国立及び私立の中学校等でも、学校等の実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。
※高等学校等については、義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で選択している実態等を踏まえ、各学校の実情に応じて改善に取り組むことが望ましい。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言（案）の概要【各論】



スポーツ庁

○地域における新たなスポーツ環境の在り方とその構築方法等（第2章）

参加者	全ての希望する生徒を想定。
実施主体	地域の実情に応じて、実施主体として多様なスポーツ団体等（総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、クラブチーム、プロスポーツチーム、民間事業者、フィットネスクラブ、大学等）を想定しながら対応。学校関係の組織・団体（地域学校協働本部や保護者会等）も想定。
活動内容	競技志向で特定の運動種目に専念する活動だけでなく、休日等におけるスポーツ体験教室やレクリエーション活動、複数の運動種目を経験できる活動、障害の有無に関わらず誰もが参加できる活動など、生徒の状況に適した機会を確保。適切な活動日数や活動時間とする。
活動場所	既存のスポーツ団体の施設や公共の運動施設の他、地域の中学校をはじめ学校の体育施設なども積極的に活用。
構築方法等	まずは休日について着実に進めた上で、次のステップとして平日に取り組むことを基本とする。地域の実情等に応じて平日と休日を一体として構築するなどもあり得る。市町村において、地域スポーツ担当部署や学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ団体、学校等の関係者からなる協議会を設置し、活動の実施主体やスケジュールなどを検討し実行。＜令和4年度から令和6年度の取組を例示＞

【具体的課題への対応】

現状と課題		求められる対応
スポーツ団体等の整備充実（第3章）	<ul style="list-style-type: none"> どの地域においても、受け皿となるスポーツ団体等の整備充実が必要だが、地域スポーツ団体と中学校等との連携が十分でないところが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 国は各地方自治体における取組の参考となるよう、連携や支援の在り方について先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供。 中学生を受け入れるスポーツ団体等について、体制の立ち上げ等に際してスポーツ振興くじ（toto）助成を含めた多様な財源の確保による支援も検討。地域の実情に応じた支援体制の整備。
スポーツ指導者の質・量の確保方策（第4章）	<ul style="list-style-type: none"> 専門性や資質を有する指導者の量を確保する必要がある。 教師等の中には専門的な知識や技量、指導経験があり、地域でのスポーツ指導を強く希望する者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者資格の取得や研修の実施の促進。JSPOは、競技団体等が主催する大会において、公認スポーツ指導者資格の取得を義務付ける。 部活動指導員の活用や、教師等による兼職兼業、企業・クラブチームや大学からの指導者の派遣、地域のスポーツ団体等と連携した人材バンクの設置など、様々な事例を参照しつつ取組を進める。 希望する教師が円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、国は許可の対象となり得る例を周知するとともに、教育委員会は兼職兼業の運用に係る考え方等を整理。
スポーツ施設の確保方策（第5章）	<ul style="list-style-type: none"> 公共スポーツ施設やスポーツ団体・民間事業者等が有するスポーツ施設だけでは足りない地域も想定される。 スポーツ団体等が学校体育施設を利用する場合、施設管理を学校が行うと負担が増大するおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校体育施設の活用を促進するため、地方自治体やスポーツ団体等が連絡・調整するための協議会を設立し、利用ルール等の策定や、利用の割り当ての調整を行う。 施設利用の促進・学校の負担軽減のため、放課後や休日の学校体育施設の管理を、指定管理者制度を活用するなどしてスポーツ団体等に委託。

現状と課題		求められる対応
大会の在り方 (第6章)	<ul style="list-style-type: none"> ・大会の参加資格が学校単位に限定され、地域のスポーツ団体等の参加は認められていないものがある。 ・中体連と競技団体が主催する全国大会が併存。全国大会ではより上を目指そうとして練習の長時間化・過熱化による怪我や故障、行き過ぎた指導等を招いている。 ・休日の大会参加の引率に負担を感じている教師もいる。大会運営の多くを教師が担っている実態がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年度以降は、国は、地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して、引き続き支援。地方自治体においても支援の在り方を見直し。 ○ 地域において、自分なりのペースでスポーツに親しみたい生徒や複数の運動種目を経験できる活動に参加している生徒等の成果発表の場としてふさわしい大会を整備。 ○ 生徒の心身の負担や保護者の金銭負担が過重にならないよう、国からスポーツ団体等に対し、全国大会の開催回数の精選を要請。 ○ 大会運営は主催者である団体等の職員により担われるべきであり、国から団体等に対し、大会運営体制について適切に見直すことを要請。
会費の在り方 (第7章)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツに支払う会費が保護者にとって大きな負担となると躊躇する恐れ。 ・経済的に困窮する家庭においては会費を支払うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設の低額での貸与など地方自治体や国からの支援、地元企業の施設の利用や用具の寄付等の支援。 ○ 例えば、地方自治体における困窮する家庭へのスポーツに係る費用の補助や、地元企業からの寄附等による基金の創設などの取組に関し、国による支援方策も検討。
保険の在り方 (第8章)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行後も安心して地域でスポーツ活動に参加できるよう、生徒や指導者が怪我等をしても十分な補償を受けられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国は、JSPOや各競技団体を通じて、地域のスポーツ団体等に対して、指導者や会員の保険加入を強く促す。 ○ スポーツ安全保険について、災害共済給付と同程度の補償となるよう、国からスポーツ安全協会に補償内容の充実を要請。
関連諸制度等の在り方 (第9章)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で運動部活動が運営され、教師が顧問となって指導を担うことが前提となっている関連諸制度について、地域でスポーツ活動に参加する生徒が増えていく状況にふさわしいものに、見直していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領：部活動の課題や留意事項等について通知・学習指導要領総則解説編に明記。次期改訂時（注：前回は平成29年に改訂）に、学校は、地域で行われるスポーツ団体等と連携・協働を深めることを規定することなどの見直しを検討。 ○ 高校入試：部活動の活動歴や大会成績のみではなく、部活動からうかがえる生徒の個性や意欲、能力について、調査書のみならず生徒による自己評価資料、面接や小論文など入試全体を通じて多面的に評価。 ○ 教師の採用：部活動指導に係る意欲や能力等について、採用選考にあたり評価したり、人事配置において過度に評価していることがあれば、適切に見直し。

※地域移行が進められている間の学校における運動部活動の見直し（第10章）

運動部活動の地域移行を段階的に進めつつも、現在行われている学校の運動部活動についても、引き続き速やかな改革が求められる。
（誰もが参加しやすい活動、複数の活動を経験できる活動日数や時間、指導体制の見直し、地域スポーツ団体等との連携・協働）

運動部活動の地域移行に係る先行事例

東京都日野市

- 地元企業の協力を得て、実業団で競技経験を有する社会人が主に土曜日に中学生を指導
- 部活動の顧問と緊密な連携を図りつつ、顧問に代わり指導を実施

運営主体：日野市教育委員会
活動場所：日野第二中学校（生徒数501人）、三沢中学校（生徒数741人）
活動頻度：週に1回（主に土曜日）
指導者：社会人（実業団選手・元選手）、スポーツ団体指導者
謝金：指導者2,252円/1時間（交通費380円/1日）
参加者：75名
参加費：0円
協力：コニカミルタ（株）、日野自動車株式会社、（一社）bjアカデミー、スポーツデータバンク（株）等

岐阜県羽島市立 竹鼻中学校

- 令和3年4月から、休日の運動部活動を総合型地域スポーツクラブの活動に移行
- 休日における活動は、希望する生徒のみが参加
- 平日の部活動や休日の大会参加は、引き続き学校の部活動として実施

運営主体：総合型地域スポーツクラブ（はしまなごみスポーツクラブ）
活動場所：竹鼻中学校（生徒数563人）、地域のグラウンド等
活動頻度：休日
競技種目：野球、サッカー、男女テニス、男女バスケットボール、男女バレーボール、陸上、卓球、剣道、柔道
指導者：クラブの指導者、外部指導者（保護者など）
謝金：1,000円/1回
参加者：300名程度
参加費：500円程度/月（別途要保険料）

富山県朝日町立 朝日中学校

- 令和3年4月から、学校部活動の一部を地域クラブの活動に移行
- 地域クラブ活動の指導者は、原則、従来より学校部活動の指導に関わっている部活動指導員・スポーツエキスパート・競技協会会員であり、学校部活動との連携に取り組む

運営主体：朝日町型部活動コミュニティクラブ
活動場所：朝日中学校（生徒数211人）、隣接する町体育施設（体育館、武道館、屋内・屋外グラウンド、テニス場など）
活動頻度：週1～3回（平日1～2回、休日1回）
競技種目：バスケットボール、柔道、剣道、卓球、陸上、バレーボール、ソフトテニス
指導者：地域指導者（部活動指導員、スポーツエキスパート、競技協会会員）
謝金：6,000円/月
参加者：約130名
参加費：0円

大分県大分市立 野津原中学校

- 令和3年4月から、休日のみならず平日を含めた全ての運動部活動を段階的に総合型地域スポーツクラブに移行
- 中体連主催の大会については、引き続き学校部活動として参加
- 休日の練習試合等はクラブの活動として参加

運営主体：総合型地域スポーツクラブ（NPO法人七瀬の里Nスポーツクラブ）
活動場所：野津原中学校（生徒数63人）
活動頻度：平日4日、休日1日
競技種目：硬式テニス、男子バスケットボール、女子バレーボール
指導者：クラブの指導者
謝金：1,600円/1時間
参加者：25名
参加費：0円



二宮町の部活動の受け皿としての 地域スポーツクラブの創出と地方活性 への可能性の検証

株式会社 J T B
ラビッツクラブ湘南二宮

2022年2月28日

目次

1. 背景・目的
2. 検証概要
3. 検証結果の報告
ーメイキングストーリーー
4. 今後に向けて

目次

1. 背景・目的
2. 検証概要
3. 検証結果の報告
ーメイキングストーリーー
4. 今後に向けて

課題とゴール

1

人口減少・少子化に伴う部員数の減少

- 町内2つの公立中学校の部活動の受け皿として事業の確立。フットサルをスタートとして、その他スポーツ・文化活動の基盤を構築し、地域活性への起爆剤とする。

2

学校教員の働き方改革

- 部活動による学校教員の深刻な勤務状況の解決策を導く。

3

地域スポーツクラブの効果的・効率的な運営

- 指導者の質や量、活動場所の確保についての検討を実施する。

二宮町ならではの地域スポーツクラブ／放課後総合サービスNINOMIYAモデルを構築し、サステナブルで魅力的な活気ある街づくりに貢献する。

目次

1. 背景・目的
2. 検証概要
3. 検証結果の報告
ーメイキングストーリーー
4. 今後に向けて

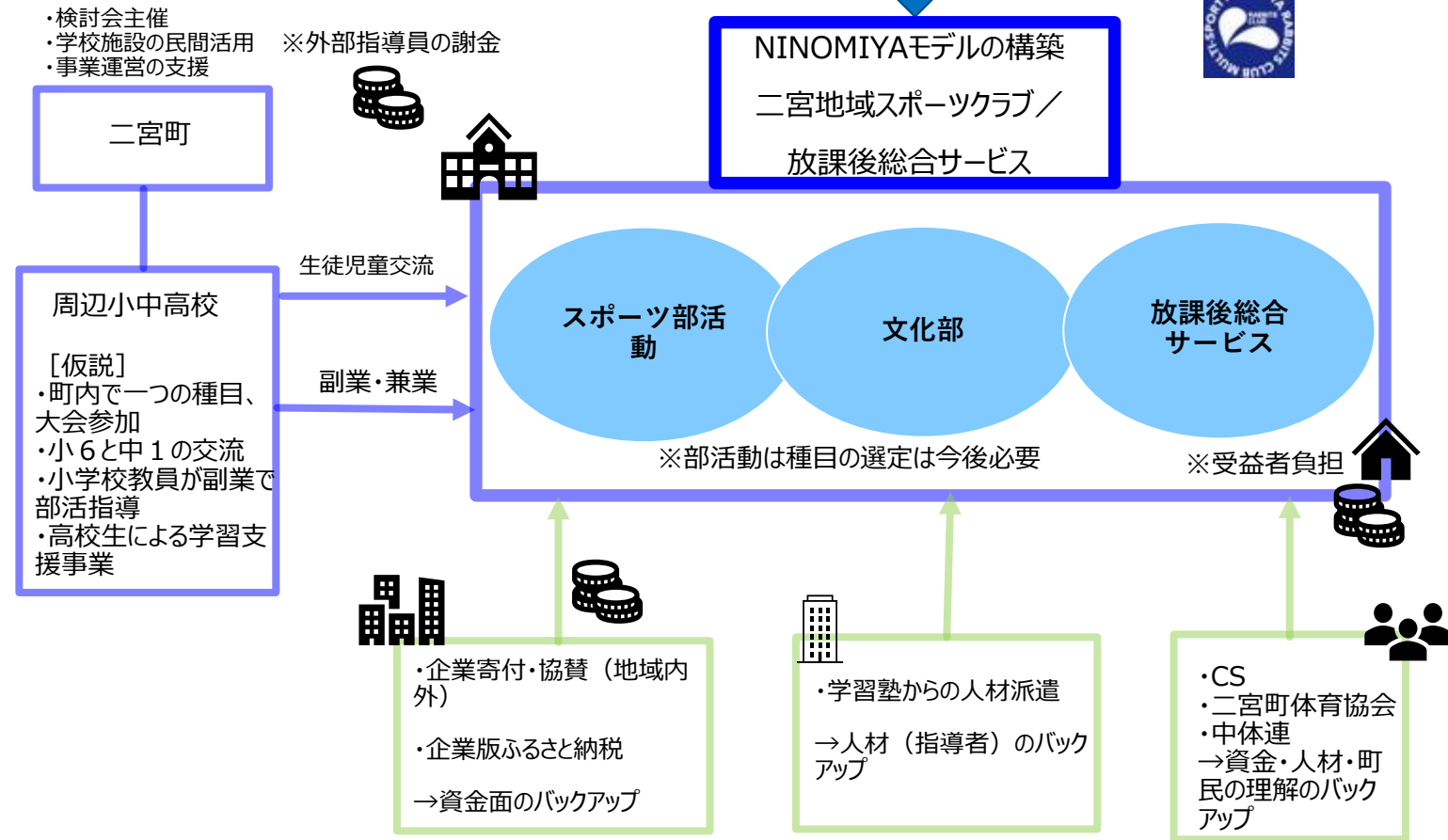
事業概要と目指す姿 ※JTB・ラビックラブ案

事業概要

類型	A類型 (一般法人×オープン)
事業者	JTB (受託事業者)
他連携先	ラビックラブ (再委託先・ 実証事業実施事業者)
実証自治体/ 学校	二宮町
概要	町内スポーツクラブを巻き込み町の部活動の受け皿としてのスポーツクラブを発足。町が抱える人口減少問題を解消するとともに、地域活性の起爆剤とすることを検討

目指す姿：

ラビックラブを中心として町クラブを巻き込み受け皿を創出。地域活性の起爆剤となることを検討



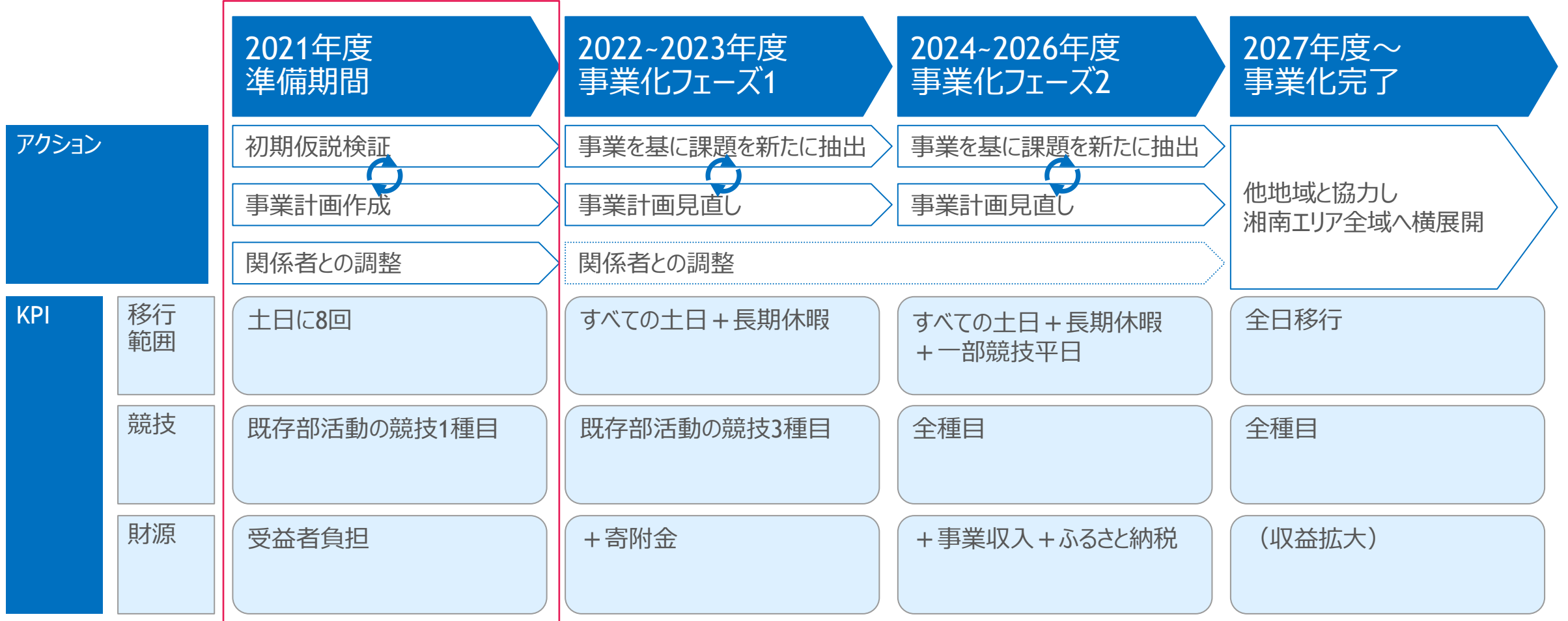
・部活動イコール学校ではなく、部活動イコール地域スポーツクラブとなる発想の転換。先生が関われないのではなく、門戸は開かれ、指導には対価が支払われる (= 副業)
 ・一番の課題でなるであろう受益者負担については、地元企業の支援、ふるさと納税の活用、町施設の運営管理委託等今までに活用のないものを模索し、軽減をはかる必要がある。

検証ポイント、実施事項

ポイント		実施事項
① 収益の確保	① 会費収入	ラビッツクラブと連携し、フットサルのトライアル指導を行い、受益者負担の可能性の可否、受益者満足度・負担受容度を検証。
	② 事業収入	地域移行後の、指導者等に支払うべき金額と、受益者負担で許容される月謝との差を検証。
	③ 企業からの収入	地域企業の寄附金および他地域企業の企業版ふるさと納税の獲得可能性を模索。商工会議所へのヒアリングを実施。実現にあたっての課題抽出を実施。
	④ 自治体からの支援	二宮町との協議の中で、今後の二宮町としての部活動の地域移行に対する方向性を策定。但し、自治体としてのみでは金銭的な支援が難しいことを確認。
② 効果的・効率的な運営	⑤ 指導者の質・量の確保	ラビッツクラブを含む地域スポーツクラブからの派遣を行うことで、質が高く、多様な競技に対応できる指導者提供スキームの検討を実施。指導者のマニュアル等の作成。
	⑥ 活動場所の確保	対象事業のトライアル指導を実際に学校施設を使って行い、施設の安全面、立地面、利用者満足度の検証、実現にあたっての課題抽出等を実施。
③ 学校部活動との関係整理	⑦ 学校との連携	アンケートを実施し、学校と地域スポーツ団体との指導方針や生徒の評価の面、指導者と運営者の役割と負担、移行後の情報共有などに対する課題抽出を実施。
	⑧ 教員の兼業・副業	二宮町教育委員会との協議、また、教員への兼業・副業に対するアンケートを実施し、実現にあたっての課題抽出を実施。
④ 放課後総合サービス検討	⑨ 学校施設の活用可能性	塾業界へのヒアリングを行い、展開事業のニーズ調査、実現への課題抽出を実施。

提案時の目指す姿に向けたロードマップ

本年度



目次

1. 背景・目的
2. 検証概要
3. 検証結果の報告
ーメイキングストーリーー
4. 今後に向けて

検証の歩み

見出	詳細p	年月日	議論相手	概要
a.	P.10	2021/7/3	ラビッツクラブ湘南二宮 二宮町教育委員会	現状課題と目指す姿の話し合い 公募への提案について、協力できるポイントの相談 提案・採択
		2021/10/20	二宮町教育委員会	検証内容説明と今後への協力依頼
		2021/10/25	二宮中学校・二宮西中学校	検証内容説明と生徒募集・実証会場の使用について協力依頼
b.	p.11	2021/11/16	二宮町教育委員会	方向性について
b.	p.12	2021/11/29	二宮町教育委員会・中学校	主な課題について
c.	p.15	2021/12/5～	ラビッツクラブ湘南二宮	町内中学校体育館での実証事業
d.	p.20	2021/12/7	日本中学校体育連盟	中体連の大会問題、中学校部活動の地域移行の展望について
e.	p.21	2021/12/17～	地域内外企業・団体	指導者派遣等
f.	p.23	2022/1/17	中学校教員	部活動顧問教員へのアンケート及びヒアリング
g.	p.30	2022/1/17	二宮町関係者	大会参加及び教員の兼業・副業に関わる課題等について検討会
g.	p.32	2022/1/24	二宮町関係者	町民や事業者が参画する上での課題及び二宮町モデル構築に向けて検討会
h.	p.33	2022/1/31	二宮町教育委員会	実証事業後の生徒へのアンケート
h.	p.35	2022/2/3	二宮町教育委員会	実証事業後の保護者へのアンケート
h.	p.36	2021/2/8	二宮町教育委員会	実証事業結果及び検討会を踏まえた今後へ向けた確認

a. 目指す姿の設定に当たっての議論

概要

- 年月日
 - 7月3日
- 参加者
 - JTB
 - ラビッツクラブ
- 議論内容
 - 目指す姿

議論内容詳細

- 二宮町の中学校では人口減少・少子化により部活動が成立していない。
→今後、ラビッツクラブが部活動の移行の受け皿として継続的に運営していくことを考えると、指導者の確保や運営のための資金確保などの課題もあるため、事業性を持って取り組んでいく必要がある。（ラビッツクラブ湘南二宮）
- 人口約27,000人の二宮町内でできることと、町外と連携や協力をしないとできないことがあるのではないかと。例えば、平塚市のスポーツクラブに指導者を派遣してもらい、二宮町が認定を受けている企業版ふるさと納税制度を活用し、町外の企業から二宮町の「部活動の受け皿構築事業」に寄付を行ってもらい、町外のこども達や住民にも参加してもらえるようにするなど。（JTB）
- 二宮町内でも小学校や高校と連携を図ることで解決できることもある。（ラビッツクラブ湘南二宮）
- 町からの支援も必要になると思うが、前提として持続的な仕組み構築が重要。（JTB）

b. 21/11/16 教育委員会との議論

概要

- 年月日
 - 21/11/16
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
- 議論内容
 - 部活動の地域移行に向けた方向性について

議論内容詳細

【協議会について】

- 協議会については、国・県にて方向性が定まっていない現状では、町（教育委員会）として主催できない
→今年度はJTB、ラビッツクラブ湘南二宮が主催して、実施することとする

【二宮町の生涯学習事業の現状】

- 町の生涯学習事業は、事業自体のマンネリ化や魅力不足も含めて集客面で課題がある。

【生涯学習事業活用の可能性】

- 民間委託を行うことで、町民が魅力的に感じる生涯学習コンテンツとなり、かつ部活動の受け皿にもなる可能性もあるため、現在実施中で、民間委託の可能性のある生涯学習事業の洗い出しを行いたい。

b. 21/11/29 教育委員会・中学校との議論①

概要

- 年月日
 - 21/11/29
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - 中学校長
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
 - 経済産業省
 - BCG
- 議論内容
 - 部活動の地域移行に向けた主な課題について

議論内容詳細

【中学校部活動の現状】

- 現在はチームスポーツの部活動の部員数は激減状態。できる生徒はクラブチームに入り、部活は人数減少のため、試合にも出られない状態。大規模な学校でもチームスポーツがやりにくいという現状がある。

【学校との折り合いについて/中学校長】

- 高校入試の際の評価への反映について、公立高校はないが、私立高校では、配慮することもある。
- 生徒との、部活での頑張りについての直接のコミュニケーションは、生徒指導や教科指導に返ってくるもの。地域移行した際の、コミュニケーション不足が懸念点。

【大会参加資格】

- 剣道や柔道、水泳、体操などの個人種目の場合、普段は地域の道場や体育館で練習をしていますが、試合に出るときは学校名で出場するなど、「学校」の枠組みが強い。
- チームスポーツについては、人数が揃わない種目は他校と合同チームで大会参加をしているが、あくまでも救済措置という扱いのため、地区～県大会までは出場できても、関東や全国大会には出場できない。

b. 21/11/29 教育委員会・中学校との議論②

概要

- 年月日
 - 21/11/29
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
 - 経済産業省
 - BCG
- 議論内容
 - 部活動の地域移行に向けた主な課題について

議論内容詳細

【大会参加資格/中学校長】

- 中体連は、その部活に関係した教員が役員になっており、学校単位が主。
→今後の部活動運営のためには、中体連の考え方を換え、県に意見を言い、大会の在り方を変えていく必要がある。
- 教員が中体連の大会を運営するのではなく、各スポーツのクラブチームも運営に参加し、参加できるようにすべき。

【教員の兼業・副業/中学校長】

- 兼業や副業の際は、契約締結が望ましい。

【学校施設の営利目的利用/教育委員会生涯学習課】

- 地域クラブによる部活動の受け入れは、そこに多少の収益性があっても、町として委託をするなど、認知をしていけば、問題はない。
- 生涯学習には、スポーツも入るため、町民にとっても、いい機会になり、受益者負担が発生しても問題はない。

b. 21/11/29 教育委員会・中学校との議論③

概要

- 年月日
 - 21/11/29
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
 - 経済産業省
 - BCG
- 議論内容
 - 部活動の地域移行に向けた主な課題について

議論内容詳細

【部活動の地域移行についての二宮町の認識/教育委員会】

- 教職員の給与は県が負担をしており、市町村は教員の部活動の手当てなどに支出をしていない。
- 今まで県で行ってきたことを、町として資金を出すことについて自治体は懸念している。
→国や県の統一的な動きであれば、自治体もお金を負担して、社会教育的な要素を盛り込んだ総合型スポーツクラブを作っていきたいと考えている。

c. 21/12/5～22/1/23 町内中学校体育館での実証事業

実施運営詳細

日付	時間	人数	参加者	参加者特徴	メニュー	運営の成果と課題 (ラビッツ側)	
12月5日 (日)	15時～17時	6名	二宮中3年1名、2年2名、1年1名 二宮西中3年0名、2年1名、1年1名	・サッカー部所属 二宮中3名、二宮西中2名 ・元サッカー部1名 (3年) ・心泉学園3名 ・ラビッツクラブ現会員2名、他民間クラブに所属無し	・フットサルの基本説明 ・ドリブル、トラップ	【成果】 ・コーチやスタッフ内での指導方針や指導メニューの共有ができた	
12月12日 (日)	15時～17時	7名	二宮中3年1名、2年2名、1年4名 二宮西中3年0名、2年0名、1年0名	・サッカー部所属 二宮中6名 (サッカー部全員) ・元サッカー部1名 (3年) ・心泉学園4名 ・ラビッツクラブ現会員1名、他民間クラブに所属無し	・前回の復習 ・ドリブル、パス	・老朽化した体育館であったが、事前の準備や中学校側の協力もあり、養生・防球をすることで安全に遂行できた	
12月19日 (日)	15時～17時	4名	二宮中3年1名、2年2名、1年1名 二宮西中3年0名、2年0名、1年0名	・サッカー部所属 二宮中3名 ・元サッカー部1名 (3年) ・心泉学園4名 ・ラビッツクラブ現会員1名	・ランニングパス ・対人練習 (2対1)	・コーチ陣の参加型で実施することにより、生徒との距離が近くなった (キャリア教育の要素)	
12月26日 (日)	15時～17時	2名	二宮中3年2名、2年0名、1年0名 二宮西中3年0名、2年0名、1年0名	・元サッカー部2名 (3年) ・心泉学園1名 ・ラビッツクラブ現会員1名、他民間クラブに所属無し	ゲスト講師：オスカー ・シンキングフットサル ・フェイクの動き	・実施時間において、既存の部活動との重なることはなかった	
1月9日 (日)	15時～17時	2名	二宮中3年2名、2年0名、1年0名 二宮西中3年0名、2年0名、1年0名	・元サッカー部2名 (3年) ・心泉学園1名 ・ラビッツクラブ現会員1名、他民間クラブに所属無し	・マーカードリブル ・シュートパス ・ウンドイス、パラレラの動き	【課題】 ・学校を通じてチラシを配布したが集客が弱かった →エンジョイ志向が伝わりにくい、他の部活動からの参加がハードルが高い	
1月16日 (日)	15時～17時	4名	二宮中3年2名、2年2名、1年0名 二宮西中3年0名、2年0名、1年0名	・サッカー部所属 二宮中2名 ・元サッカー部2名 (3年) ・心泉学園3名 ・ラビッツクラブ現会員1名、他民間クラブに所属無し	・シュートパス ・ウンドイス、パラレラの動き ・3人目の動き	・二宮西中サッカー部の練習が日曜午後で重なる、二宮中 & 二宮西中の合同練習が重なり。行きたい生徒も参加しにくい →教員側との事前の擦り合わせが必要だった。生徒が混乱していた。	
1月23日 (日)	15時～17時	4名	二宮中3年1名、2年0名、1年0名 二宮西中3年0名、2年1名、1年2名	・サッカー部所属 二宮中1名、二宮西中3名 ・元サッカー部1名 (3年) ・ラビッツクラブ現会員1名、他民間クラブに所属無し	・ランニングパス ・シュートパス ・ウンドイス、パラレラの動		
1月30日 (日)	15時～17時		新型コロナウイルス感染症拡大により開催中止				

※実証 7 回目については、心泉学園の生徒4名は新型コロナウイルス感染症拡大により外出禁止となり不参加となった。

実施タイムスケジュール

実施日：2021年 月 日() 00:00～00:00(分間) ラビッツ関係者：コーチ4名～5名、受付救護スタッフ1名、カメラマン1名

準備物：ボール20個、ゴール4つ、ビブス4色、マーカー、コーン、養生道具、動画撮影機材、コロナ感染対策用品、救急セット

進行時間イメージ			項目	概要	準備物
開始	終了	所要時間			
14:00			スタンバイ	スタッフ集合、スタッフ打合せ	養生設置・ゴール設置
14:50	15:00	0:10	生徒到着	受付、検温、消毒	机・椅子・体温計・消毒・救急セット
15:00	15:10	0:10	ミーティング	自己紹介、目的共有とスケジュール説明、注意事項案内、リーダー決め	動画撮影
15:10	15:20	0:10	※アイスブレイク	準備運動に繋げるための準備（鬼ごっこなど）	ボール、マーカー、コーン、ビブス
15:20	15:30	0:10	※準備運動	全体でストレッチ（全員で同じメニュー）	ボール、マーカー、コーン、ビブス
15:30	15:45	0:15	※基礎練習	・ドリブル、パス、シュートなどの基本的な練習。 ※レベルに合わせて2つのカテゴリーに分ける。	ボール、マーカー、コーン、ビブス、ゴール
15:45	16:00	0:15	※対人練習	・1対1、2対1、2対2、3対2など対人での練習。 ※レベルに合わせて2つのカテゴリーに分ける。	ボール、マーカー、コーン、ビブス、ゴール
16:00	16:50	0:50	ゲーム	チームに分けゲームを行う。（ゴール有り・ゴール無し） ※レベルに合わせて2つのカテゴリーに分ける。	ボール、マーカー、コーン、ビブス、ゴール
16:50	17:00	0:10	ミーティング	目的の振り返りとまとめ、リーダーから感想、生徒からインタビュー、次回の案内	動画撮影
17:00	17:30	0:30	片付け		

- ・ ※の部分については、参加人数や参加者のレベルによってアレンジをすることで実施。
- ・ 実証7回目についてはコロナウイルス感染拡大の対策のために90分に変更。

実施運営 写真・動画リンク

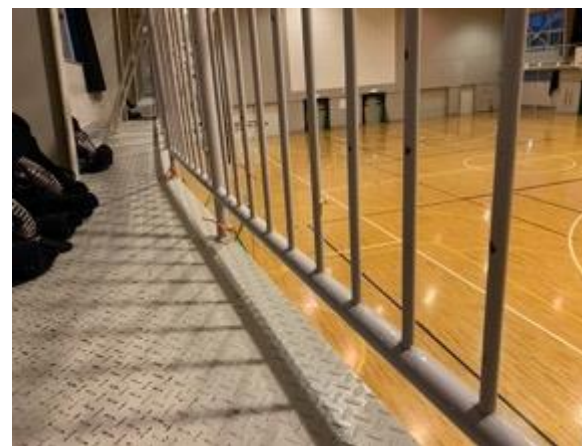
※Dropbox 閲覧パスワードはrabirabi

<p>12月5日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/s/ehtb5vla30e34la/Rabbits_20211205.MP4?dl=0</p>	<p>12月12日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/s/30w460qhps9tku4/Rabbits_20211212_2.MP4?dl=0</p>	<p>12月19日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/s/h/dlhpbl87m43ospe/AAAIpFRqhuvgtWbV7XGcU_Gba?dl=0</p>	<p>12月26日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/s/ti1jmr2bxqevn6v/Rabbits_20211226.mp4?dl=0</p>
<p>1月9日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/sh/4lewramjpe85yw5/AADQAJOPYNjBDNWfduN ZrjQ6a?dl=0</p>	<p>1月16日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/s/ubcte9t42yd8zpz/Rabbits_20220116.mp4?dl=0</p>	<p>1月23日 (日)</p>  <p>https://www.dropbox.com/s/vxxd1j19hx6yjha/Rabbits_20220123.mp4?dl=0</p>	<p>1月30日 (日)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の 拡大により開催中止</p>

実施運営 活動場所の課題点整理



- マット、ネット&重しをゴール裏に設置
- フットサルゴールは簡易ゴール（幅3m×高さ2m）
- 体育館フロアは問題無し（数年前にリニューアル）
- 二宮中学校の生徒は、徒歩または自転車で、
二宮西中学校の生徒は、送迎や自転車を利用していた。



- ネットは2階の手すりからさげ、下に重しをおく
- 終了時はネットを上げる



- フットサル用具の保管場所



- 壁が薄いため破損箇所が多い
→体育館壁面の老朽化



- 黒カーテンの汚れや老朽が目立つ
→衛生上の問題

実施運営 指導者提供スキーム

1、スタッフ方針

クラブ理念

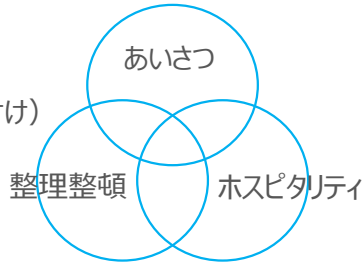
楽しさが、行動を変え、人生を変える

スタッフ目標

- ・イキイキと活躍している先輩（社会人、大学生）の姿を見せることで**生徒の見本**に。
- ・生徒と一緒に**楽しむこと**を重視する。
- ・**積極的なコミュニケーション**をとる（参加者、スタッフ同士）

スタッフ行動指針

- ①**あいさつ**（生徒、保護者、外部関係者、スタッフ全員への徹底）
- ②**整理整頓**（荷物を揃える、靴を並べる、用具の管理、ビブスの片付け）
- ③**ホスピタリティ**の精神を持つ（目配り、気配り、心配り）
目配り・・・視野を広く、生徒やスタッフ同士の動きを把握
気配り・・・生徒は名前ではぶ、個性をつかむ、声かけ
心配り・・・生徒の感情をよむ（楽しんでるかどうか）



2、生徒の生きる力を育む

変化の激しいこれからの社会の中で、「生きる力」学力の3要素が必要とされている。ラビッククラブ湘南二宮では、特に②**思考力・判断力・表現力**に重視した指導を行っている。

①主体性・多様性・協調性

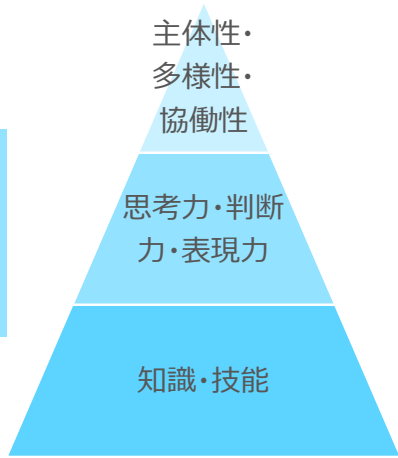
学んだことを人生や社会に生かそうとする「主体性・多様性・協調性」の力。どのように社会と関わり、より良い人生に繋げる。

②思考力・判断力・表現力

知識・技能の上に設定される「思考力・判断力・表現力」。今後さらに変化が激しく将来の予測が困難な社会では、問題を発見し、解決の方向性を決め、方法を探して計画を立て、解決策に向けて実行する力が必要となる。

③知識・技能

「知能・技能」、は実際の社会の中で生活し働くために必要。これは「何を理解しているのか、何ができるのか」を示すものである。学力の3要素の土台となる。



参考：新学習指導要領リーフレット
https://www.mext.go.jp/content/20201209-mxt_daigakuc02-100014554_38.pdf

3、指導マニュアル

項目	目的	手法
生徒集合	あいさつ、整理整頓	・スタッフによる声かけ
ミーティング	全体や個人の目標設定	・全体説明 ・自己紹介
アイスブレイク	導入、準備運動に繋げるための準備	・身体や脳をほぐす
準備運動	コミュニケーション、チームワーク、怪我予防	・全員同じメニュー ・生徒、スタッフとのやりとり
基礎練習	楽しむための「スキル」や「戦術」を理解する	・パス、ドリブル、シュート ・3人目の動き、シュートパス
対人練習	インプットしたものをアウトプットする	・2対1、3対3
ゲーム（試合）	考える、判断し、表現すること、マネすること	・5対5
ミーティング	振り返りとまとめ、次回の案内、リーダーから感想	・クールダウン ・全体
片付け	感想共有	・スタッフによる声かけ

4、指導の様子アーカイブ

Dropboxでパスワード設定し共有

- ・コーチ、スタッフ内で動画を共有
- ・定期mtgの際に指導内容の共有とブラッシュアップ



d. 21/12/7 日本中学校体育連盟へのヒアリング

概要

- 年月日
 - 21/12/7
- 参加者
 - 日本中学校体育連盟市川副会長
(小田原市立国府津中学校校長)
 - ラビッツクラブ
- 議論内容
 - 中体連運営の大会問題について
 - 部活動の地域移行の展望について

ヒアリング内容詳細

- 【中体連運営の大会問題について】
 - 中体連の大会はエンジョイ志向で、勝利至上主義ではない。
 - 学校指導要領に「部活動」が記載されているので学校の業務に入っているが、次期学習指導要領の改訂のタイミングでなくなれば、中体連の在り方は変わると考える。
 - 今後は、各種目の協会が中心となり大会をやったほうがよい。その中では競技レベル/エンジョイレベルと分けてもよいのではないかと考える。
- 【中学校部活動の地域移行の展望について】
 - 兼業・副業も今後さらに加速していくと考えている。
 - 地域クラブの経営方法がポイントになるが、地域の受け皿がしっかりとされていれば、移行すべきと考える。

e. 21/12/17 地域外の企業へのヒアリング①

概要

- 年月日
 - 21/12/17
- 参加者
大手教育関連企業 執行役員・総務部長
- 議論内容
学校施設使用における現状課題等について

ヒアリング内容詳細

- 【学校施設の活用について】
- 全国の自治体で学校等公共施設での放課後の学習サポート関連事業（文科省、厚労省）を受託している。
 - 学校施設活用の際は学校毎に詳細な使用導線や使用施設、備品の取り決めを行い実施をしているが、制度整備がされていないため、学校長の判断に依るところが大きい。
 - 放課後総合サービスのような事業への参画については、今後の制度整備次第と考えている。

e. 22/1/21 地域内外の企業へのヒアリング②

概要

- 年月日
 - 22/1/21
- 参加者
 - (株)湘南ベルマーレフットサルクラブ／企業版ふるさと納税コーディネーター
- 議論内容
 - 中学校部活動地域移行のための課題

ヒアリング内容詳細

【地域移行のための課題】

- 受益者負担による経済格差
 - 所得が一定以下の生徒には支援制度構築が必要
- ビジネス化における、指導者確保の財源と受益者負担受容性との差
 - 指導者には、週1回3時間で約10万円/月＋補助要員1名には謝金で2万円/月。この体制で20名指導すると、受益者負担は1名あたり6,000円/月。
 - この月謝を払うことを受容してもらえるか。
- 広域連携の際の移動手段の確保や提供
- 中体連主導の大会の参加資格
 - 現状参加単位は学校。サッカーには、クラブチームも部活も参加できる大会が3つある。

【企業版ふるさと納税について】

- 部活動の地域移行事業のみで寄附額を確保するには難易度が高い。（趣旨として、人口増や財源増につながる魅力ある地域づくりのための制度であるため。）
- 町の事業としてマイナースポーツ（サーフィンやフェンシング、ヨットなど）で強いものを作ることや、有名指導者が来て町の看板となること、スポーツセンターなどの目玉になる拠点施設を作るなどが有効ではないか。

f. 22/1/24 部活動顧問教員へのヒアリング① (アンケートより)

概要

- 年月日
 - 22/1/24
- 対象
 - 教員
(二宮中・二宮西中)
- 目的
中学校部活動の現状把握及び地域移行に対する意見収集

ヒアリング内容詳細

【部活動関与の現状】

- 部活動に、週に、11～15時間関わっている神奈川西エリアの教員が、44.4%
- 中学校教員の1週間平均労働時間は、60～65時間（H28統計・出典：文科省教員勤務実態調査（平成28年度）の分析結果及び確定値の公表について（概要））で、多くの教員は部活動に、1週間のうち1/5以上の時間を取られている。
- 多くの教員は、自分がやったことのないスポーツの指導を行っている。
- 半数弱の教員が、外部指導員を活用しているが、週に1回が最も多く、土日どちらかという場合も多い。

【周辺学校との連携】

- 現状、二宮中学校、二宮西中学校では、自校の生徒のみで活動できている部活動が88.9%
- できていないと答えた部活動での周辺学校との連携として、土日の合同練習や、地域大会への合同チームとしての参加という対策が挙げられた。

f. 22/1/24 部活動顧問教員へのヒアリング② (アンケートより)

概要

- 年月日
 - 22/1/24
- 対象
 - 教員
(二宮中・二宮西中)
- 目的
中学校部活動の現状把握及び地域移行に対する意見収集

ヒアリング内容詳細

【地域移行後の学校運営上の懸念点】

- 家庭における経済的負担、移動の負担
- 生徒の部活動での様子などの、指導者との連絡体制の構築
- 指導者の教育的観点からの能力不足
- 事務的作業（日程調整等）まで地域クラブが行えるのか
- 生徒がけがをしたなどの場合の責任の所在
- 学校施設の管理者の問題
- 大会が学校単位である問題

f. 22/1/24 部活動顧問教員へのヒアリング③ (アンケートより)

概要

- 年月日
 - 22/1/24
- 対象
 - 教員
(二宮中・二宮西中)
- 目的
中学校部活動の現状把握及び地域移行に対する意見収集

ヒアリング内容詳細

【教員の兼業副業について】

- 部活動の指導をしたいという教員は33.3%
- その理由として、
 - ・部活動指導が好きだから
 - ・指導力があるから
 - ・教育上生徒とのかかわりを持つ必要があるからなどが挙げられた。
- 部活動の指導をしたくない理由としては、
 - ・休日は自分の時間にしたいから
 - ・過重労働解決にならないから
 - ・本来部活動に興味がないからなどが挙げられた。
- また、兼業副業が認められた場合の懸念点としては、次のような意見が挙がった。
 - ・半強制的にならないか
 - ・結局のところ、働き方改革にならず、更に負担が増えないか
 - ・地域クラブとの教育の方向性の違いが生まれる可能性
 - ・事務作業のみ教員がやることになってしまわないか
 - ・指導員としての研修が必要になる場合、授業の研修と重なり、負担が倍増しないか

f. 22/1/24 部活動顧問教員へのヒアリング④ (アンケートより)

概要

- 年月日
 - 22/1/24
- 対象
 - 教員
(二宮中・二宮西中)
- 目的
中学校部活動の現状把握及び地域移行に対する意見収集

ヒアリング内容詳細

【大会に地域団体も参加できる場合の意見】

- 運営側の決定に係るスピードの低下が懸念される
- 地域スポーツクラブと、学校部活動とのレベルの差が顕著になる
- 生徒が怪我した場合等の責任の所在
- 部活動参加の生徒からの大会参加希望は出ないのではないか。
(地域移行後は、地域スポーツクラブへの参加者は専門的に練習したい生徒で、部活動への参加者は楽しみたい生徒になるはずだから。)

f. 22/1/24 部活動顧問教員へのヒアリング⑤ (アンケートより)

概要

- 年月日
 - 22/1/24
- 対象
 - 教員
(二宮中・二宮西中)
- 目的
中学校部活動の現状把握及び地域移行に対する意見収集

ヒアリング内容詳細

【地域移行への賛否】

- 賛成は66%以上、反対と答えた人はいなかった。
- 部活動をやらないことへの教員の業務軽減により、離職率が下がるのではないか
- 現状、業務量的に部活動を見るのが厳しい などの意見があった。
- 一方、地域移行後の受益者負担でスポーツをする生徒が減るのではないか
- 本当に、教員の業務量が減るのか
- 地域移行までの時間がかかりそう
- より明確に定めてほしい などの不安な意見も多く挙がっていた。

g. 22/1/17 部活動地域移行に向けた検討会①-1

概要

- 年月日
 - 22/1/17
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - 中学校教員
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
- 議論内容
 - 大会参加・教員の兼業、副業に関わる課題
 - その他の課題
 - ロードマップ作成に向けて

議論内容詳細/中学校教員

【大会参加に関わる課題】

- 土日が大会でとられている。
- 教員の中には、競技種目の県の役員などになって生きがいを感じているような人もいるが、同じレベルで若い先生などに求めても負担に感じる。

【教員の兼業・副業に関わる課題】

- 多くの教員は、競技経験があったとしても指導者としては素人であるため、競技志向・エンジョイ志向のいずれにしても、研修や資格が必要になる。
→学校授業のための研修が大変な状況で、さらに部活動のための研修が入ると、労務上負担が多くなる。
- 現状8時半～17時という教員の勤務時間で部活動を実施しているが、兼業や副業となると、現状の勤務時間では二重勤務にならざるを得ないため、勤務制度を変える必要が出てくる。

【地域移行ロードマップ作成に向けた意見】

- 地域移行や、受益者負担を行うのであれば、子どもたちや保護者への説明は、国や文科省などから行うべき。
→それを受けて、二宮が取り組むということを示さなければ、他地域との公平性を担保するなどはない。

g. 22/1/17 部活動地域移行に向けた検討会①-2

概要

- 年月日
 - 22/1/17
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - 中学校長
 - 中学校教員
 - JTB
 - ラビッツクラブ
 - 湘南二宮
- 議論内容
 - 大会参加・教員の兼業、副業に関わる課題
 - その他の課題
 - ロードマップ作成に向けて

議論内容詳細/中学校長

【地域移行に向けたロードマップ作成に向けた意見】

- 教員の「働き方改革」として、教員が授業に集中できる環境を保障して欲しい。趣味としてコーチなどをするのは別として、地域クラブによる部活動の地域移行という事業がうまく展開できることを希望する。

g. 22/1/24 部活動地域移行に向けた検討会②

概要

- 年月日
 - 22/1/24
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - 中学校教員
 - 二宮町商工会議所
 - CS
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
- 議論内容
 - 現状課題
 - ロードマップ作成に向けて

議論内容詳細

【学校施設使用に関する課題】

- 現状、使っていない時間は使用可能とするなど、新たな施策に乗り出すにあたり、法令や関係者間理解等、合意形成を取らなければならない部分が多い。

【町事業者が参画する上での課題】

- 産業と教育という観点で、最終的に将来の産業育成や町内消費につながるということを理解してもらい、協力・協賛してもらうための説明が重要。

【総合型サービスに町民が参加する上での課題】

- 町の生涯学習事業の現状として、主体的に運営していた町民の高齢化のため運営が難しい状況。制度見直しの時期であるが、現状の生涯学習関係者の反発や多様な要望など変えることの困難さを感じる。

【地域の事業者のかかわり方】

- 地元企業での大きな協賛については難しいものの、地域移行などが決定した場合、商工会議所として協力することは可能。そのほか、町外の企業からの出資は、企業版ふるさと納税の活用も含めて検討要。

c. 21/12/5～22/1/23 町内中学校体育館での実証事業を受けて

h. 22/1/31 生徒アンケート① (アンケートより)

概要

- 年月日
 - 22/1/31
- 対象
 - 生徒11名
(二宮中・二宮西中)
- 目的

地域クラブへの参加の感想

※n数が少ないこと、中学生であることから、紙ベースでのアンケートとともに実証時のコーチからのインタビューを組み合わせ定性的に検証した。

「フットサルの全体的な感想について」

- 80%が満足、20%が普通の結果から、地域クラブのコンセプトである「楽しむ」ことが伝わった。

「地域のクラブや学校の部活動に期待することは何ですか？（複数回答可）」

- 「スポーツを楽しむ」81%、「競技レベルを目指したい」45%の結果と参加した生徒の当日のインタビューから勝利至上主義ではなく、スポーツを楽しむことが優先順位が高いことがわかった。

「学校の部活動が、ラビッツクラブ湘南二宮のような地域スポーツクラブで行うことになった場合、加入したいですか？（選択式）」

- 「加入したい」64%、「どちらでもない」18%、「わからない」9%「加入しない」9%
- 記述式のコメントは下記。
- 「地域の人とたくさん関わって上手になっていきたいから。」、「部活動よりも楽しかったから」
→同じ中学校の卒業生の学生コーチや大人と一緒にいることで世代間の交流もできる。（当日のインタビュー）
- 「部活があるから」
→部活動の地域クラブ移行についてまだまだ認知が低い。生徒も全員が知らなかった。

h. 22/1/31 生徒アンケート② (アンケートより)

今回、フットサルに参加した感想やご意見などを自由に記入ください。(記述式)

11件の回答

楽しかったです！
楽しかったです！またやって欲しいです。
楽しかった！
フットサルの基そからゲームの流れまで、ていねいに優しくアドバイスをしてくれて、とってもプレイして楽しいし、やりやすかったです。サッカーとフットサルは違うところが多いけど、フットサルの技術を学んで、しっかりサッカーでも活かしていきたいです。
今回中学校フットサルをやってみて、今まではフットサルのボールの扱い方をあまり知らずに行っていて、今回のフットサルでそのようなことが分かってよかった。フットサルで習ったことを今後部活でもしたいと思った。
今まで、フットサルはしたことがなかったが、初めてなのにわかりやすく教えてもらい、基礎などもわかった。またこのような機会があったら友達を誘っていききたいです。
フットサルでのトラップのしかたや、ボールのけり方など部活動でおそわらないことを今回のフットサルで知れてとても良かったです。
たのしかった
とてもたのしかったです
やさしくおしえてくれたり、わかりやすい方法で教えてくれたりとかがとても良かったです
足のうらでとめたりするのがサッカーでは、あまりつかわないのでむずかしかったけどだんだんとなれて、いったので良かったです。これからもこういう活動をつづけてほしいです。

概要

- 年月日
 - 22/1/31
- 対象
 - 生徒11名 (二宮中・二宮西中)

- 目的
 - 地域クラブへの参加の感想

※n数が少ないこと、中学生であることから、紙ベースでのアンケートとともに実証時のコーチからのインタビューを組み合わせ定性的に検証した。

- 週1回2時間の短い時間だったが、楽しかった、またやりたいという、動機に繋がったのは成果と言える。
- フットサルは80%が初めてだったので、基礎練習を学ぶことも新鮮で、サッカーにつながるキッカケとなった。
- 周りの友達に声をかけたが、部活の休みの日に行くのは面倒、塾などの予定がある、と言われ認知度が低かった。(当日のインタビュー)

h. 22/2/3 保護者アンケート① (アンケートより)

保護者様の視点で、地域のクラブや学校の部活動に期待することは何ですか？ (複数回答可)

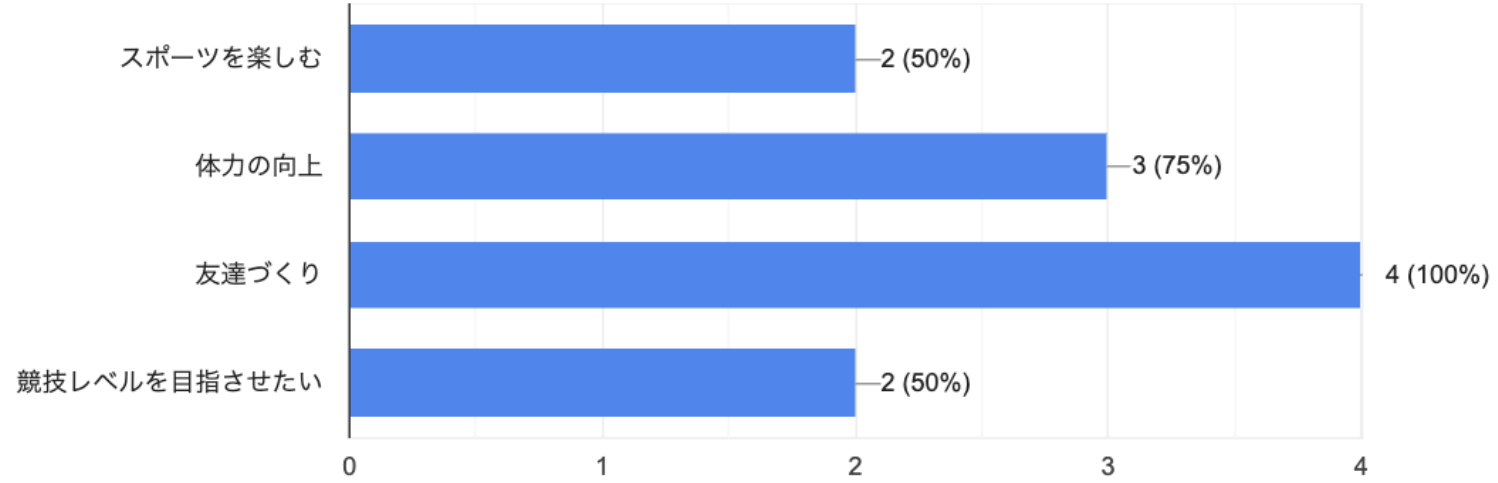
4件の回答

概要

- 年月日
 - 22/2/3
- 対象
 - 保護者4名/9名 (二宮中・二宮西中)
 - ※心泉学園4名は保護者1名のカウント

- 目的
 - 地域クラブ移行に対するの考え

※n数が4名と少ないため1名の保護者からインタビューを行うことで検証した。



- 生徒のアンケートでは、「スポーツを楽しむ」81%、「競技レベルを目指したい」45%の割合が大きかったが、保護者は、「友達づくり」が100%であった。このことから、部活動への期待することは「人とのコミュニケーション」や「チームビルディング」に期待する傾向がある。

c. 21/12/5～22/1/23 町内中学校体育館での実証事業を受けて

h. 22/2/3 保護者アンケート② (アンケートより)

質問項目から抜粋。4名のため個別の回答を掲載する。

- 1: 学校の部活動が、ラビッツクラブ湘南二宮のような地域クラブで行うことになった場合、加入したいですか？
(選択式)「加入したい・どちらでもない・加入しない」
- 2: 学校の部活動が、地域クラブで行うことになった場合、受益者負担（保護者負担）となることについて考えをお聞かせください。
(選択式)「賛成・どちらでもない・反対」
- 3: 「上記の項目」を選んだ理由を教えてください。(記述式)
- 4: 学校の部活動が、地域クラブに移行し、受益者負担（保護者負担）となった場合、月額いくらくらいなら払おうと思えるか、ご意見をお聞かせください(記述式)

概要

- 年月日
 - 22/2/3
- 対象
 - 保護者4名／9名
(二宮中・二宮西中)
 - ※心泉学園4名は保護者1名のカウント

- 目的
 - 地域クラブ移行に対するの考え

※n数が4名と少ないため1名の保護者からインタビューを行うことで検証した。

あ:二宮中学校 中学校3年生

- 1:その他 (なぜ地域クラブにしなくてはならないのか分からない)
- 2:どちらでもない
- 3:保護者負担の内容による
- 4:部活では月謝がなかったのに、なぜ地域クラブに移行するのも分からないし、月謝がかからなかったものが月謝がかかるようになってしまうのか、わからない

い:二宮西中学校 中学校1年生

- 1:どちらでもない
- 2:反対
- 3:試験前休みがとれる。塾のための欠席もできる。入試前の引退時期も早い。怪我が多いので休むことも多い等の理由で部活にしたので、別の形になるのは不安です。
- 4:3,000円

う:二宮西中学校 中学校1年生

- 1:どちらでもない
- 2:賛成
- 3:希望者の負担が当然
- 4:3,000円程度

え:二宮西中学校 中学校2年生

- 1:どちらでもない
- 2:どちらでもない
- 3:スポーツは続けて欲しいので部活動が無くなるのであれば地域クラブに参加を促すと思います。その際に別途費用が掛かるとしても、そういうものだろうと理解します。
- 4:3,000円

c. 21/12/5～22/1/23 町内中学校体育館での実証事業を受けて

h. 22/2/3 保護者アンケート③ (アンケートより)

最後に、部活動の地域クラブ移行について、今回フットサルに参加した感想やご意見などをご自由に記入ください。(記述式)

4件の回答

部活を廃止してフットサルにすると、サッカー自体やめてしまうこも出てしまうと思います。部活としてなら入りやすい。

最近先生の負担軽減のため部活動を少なくする傾向にあるように感じます。部活の良さはあるので部活はありつつ、少なくなった分を希望する人は、今回のようなクラブに参加できると良いと思います。

動画共有はありがたかったです。大変だと思しますので毎回じゃなくても良いのでやっていただけると、子供の様子などが見れてとても嬉しいです。
子供にとってスポーツは精神的な成長にも繋がると考えているので、続けられる環境を提供してもらえるのはありがたいです。

少子化なので仕方がない

概要

- 年月日
 - 22/2/3
- 対象
 - 保護者4名／9名
(二宮中・二宮西中)
 - ※心泉学園4名は保護者1名のカウント

- 目的
 - 地域クラブ移行に対するの考え

※n数が4名と少ないため1名の保護者からインタビューを行うことで検証した。

- 今回はフットサルの種目として行ったため、サッカー部が無くなるのが不安であることがわかる。しかしながら、二宮中学校はサッカー部の部員が6名のため、二宮西中との合同練習や公式戦はバスケット部から助っ人に入ってもらい試合に出る現状である。サッカー部の部員の減少は避ける事はできない。少子化の問題もあり、一つの中学校単体での部活動は今後難しいことは保護者からも声が出ている。(保護者からのインタビューから)
- 地域クラブ移行の際に、種目が減ることはスポーツをするきっかけを減らすことにつながってしまう。大磯町や中井町の隣接地域と連携し、種目の選択肢をある程度確保する必要がある。(保護者からのインタビューから)
- 中学生の世代は親とのコミュニケーションが少ないので、練習の様子を動画で見れるのは、親への付加価値としてつながる。

b. 22/2/8 教育委員会との議論

概要

- 年月日
 - 22/2/8
- 参加者
 - 二宮町教育委員会
 - 経済産業省
 - BCG
 - JTB
 - ラビッツクラブ 湘南二宮
- 議論内容
 - 実証事業を終えて部活動の地域移行に向けた今後の方向性についての確認

議論内容詳細

【実証事業を終えて、今後に向けての共有・確認】

- 二宮町の意見・感想
 - ・受益者負担が課題になるかと思うが、現実町には予算が無い
 - ・町には大企業が無く、資金面の支援は現実的では無い
 - ・部活動の地域移行については町としては、先駆けて動きたいが受益者負担等反感を買ってしまう可能性があるため慎重にならざるをえない。（議会、関係者対応含めて）
 - ・内容含めて重要性は理解しているが、長い目で見えていかなくてはならない。
 - ・文科省から5月にだされる方針を確認して、しかるべき手続きをとった上で進めていきたい。そこまでは現状できることを模索していきたい。
- 今後のアクションの方向性
 - ・令和3年度の実証事業の発展的継続の検討
 - ・ステークホルダーへの理解・浸透が不可欠（勉強会設置の検討）
 - ・部活動指導員の活用を検討

検証を通じての学び・示唆

検証ポイント

実施事項

① 収益の確保	① 会費収入	受益者負担について、実証事業に参加した保護者アンケートを実施。肯定、否定双方の意見が見られたがアンケート母数が少ないため、今後も部活動の現状の理解浸透と適正な料金面の模索を両面で行っていく必要あり。
	② 事業収入	P39、40参照。最低必要な金額にて算出したが、事業者がビジネスとすることはこの段階では難しいのではないかと。資金調達面が課題。
	③ 企業からの収入	地元企業からの大きな協賛は難しい。地域移行が決まったさいには商工会議所として協力することは可能。継続議論。
	④ 自治体からの支援	二宮町単体では現状の予算運営上では支援は厳しい。
② 効果的・効率的な運営	⑤ 指導者の質・量の確保	ラビッククラブの指導員の目標である「生徒と一緒に楽しく」は伝えることはできた。本気で大会等で優勝したいというレベルを求める方は遠方のクラブチームに行くなど、資源を考えると線引き、諦めが必要ではないか。
	⑥ 活動場所の確保	町内中学校を確保。
③ 学校部活動との関係整理	⑦ 学校との連携	二宮町教育委員会、校長先生との議論、部活動顧問教員のアンケートを通じて課題抽出を行えた。
	⑧ 教員の兼業・副業	部活動顧問教員アンケートを実施し、課題抽出を行えた。
④ 放課後総合サービス検討	⑨ 学校施設の活用可能性	放課後総合サービスのような事業への参画は今後の制度整備次第と考えている。学校施設の活用は制度整備が追いついておらず、学校長判断に依るところがおおきい。

目次

1. 背景・目的
2. 検証概要
3. 検証結果の報告
 - ① メイキングストーリー
 - ② そこからの学び・示唆
4. 今後に向けて

事業収支計画（受益者負担可能な場合）

費用 合計330,000円

謝金 ① + ② = 144,000円（年間）

1種目（フットサル）の場合 ※1回2時間とする

①指導者報酬 1名2,000円×月2回×2名

②運営員（連絡・受付）1名2,000円×月2回×1名

※コーディネーター業務

運営費 ③ + ④ = 170,000円（年間）

③ホームページ、SNS管理・更新 年50,000円

※更新などは生徒が担当

④精算業務 月1万円（1種目想定）

会場費

学校施設のため費用は無し

スポーツ保険料

⑤1名800円×20名 16,000円

※他の種目を行う場合は要検討

※会場、内容、指導回数にもよる

売上 合計365,000円

受益者負担 ① + ② = 280,000円

①月会費1人1,000円（1種目・月2回）×20名

②年会費1人2,000円（保険、事務手数料）×20名
（保険料800円 + 事務手数料1,200円）

企業寄付

③企業寄付30,000円×2社

（webバナー広告、イベント、キャリア教育など）

個人寄付

④個人寄付5,000円×5名

（名前掲示、生徒からのメッセージや動画など）

事業収支計画（受益者負担不可能な場合）

費用 合計330,000円

謝金 ① + ② = 144,000円（年間）
 1種目（フットサル）の場合 ※1回2時間とする
 ①指導者報酬 1名2,000円×月2回×2名
 ②運営員（連絡・受付）1名2,000円×月2回×1名
 ※コーディネーター業務

運営費 ③ + ④ = 170,000円（年間）
 ③ホームページ、SNS管理・更新 年50,000円
 ※更新などは生徒が担当
 ④精算業務 月1万円（1種目想定）

会場費
 学校施設のため費用は無し

スポーツ保険料
 ⑤1名800円×20名 16,000円

※他の種目を行う場合は要検討
 ※会場、内容、指導回数にもよる

売上 合計175,000円

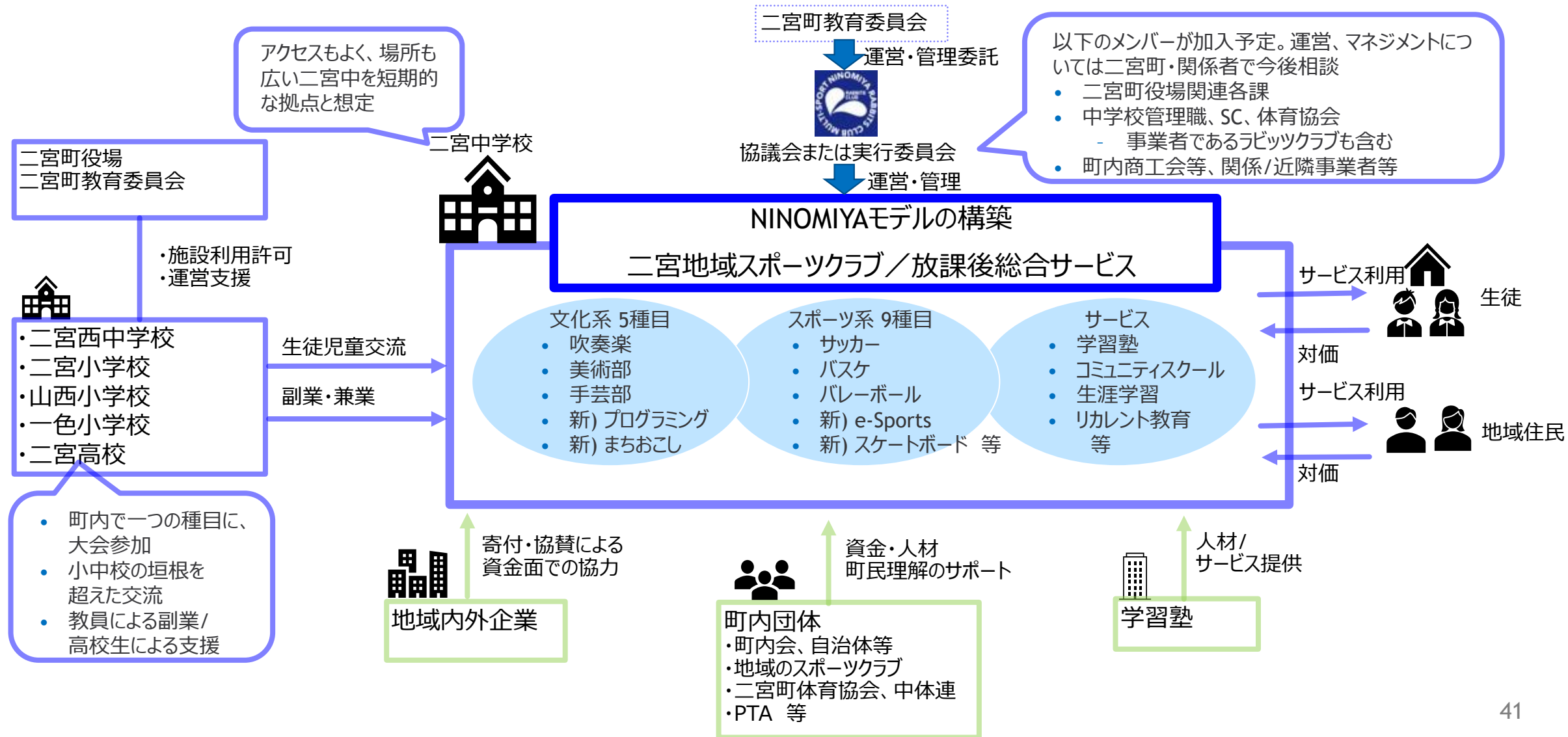
受益者負担 無し
 部活動指導員※町民活動推進のための助成金
 ①年間50,000円（1部活動あたり）
 保険代・事務手数料
 ②年会費1人2,000円（保険、事務手数料）×20名
 （保険料800円 + 事務手数料1,200円）

企業寄付
 ③企業寄付30,000円×2社
 （webバナー広告、イベント、キャリア教育など）

個人寄付
 ④個人寄付5,000円×5名
 （名前掲示、生徒からのメッセージや動画など）

検討後の目指す理想像：概要（案）

- 二宮町から運営委託された協議会/実行委員会を中心に、幼児～高齢者の世代間のタテの交流と、各種目や企業とのヨコの連携が可能な「二宮地域スポーツクラブ」の設立を目指す



検討後の目指す理想像：詳細（案）

- ・部活動イコール学校ではなく、部活動イコール地域スポーツクラブとなる発想の転換。先生が関われないのではなく、門戸は開かれ、指導には対価が支払われる（＝副業）
- ・一番の課題でなるであろう受益者負担については、地元企業の支援、ふるさと納税の活用、町施設の運営管理委託等今までに活用のないものを模索し、軽減をはかる必要がある。

二宮町役場
二宮町教育委員会

- ・検討会主催
- ・学校施設の民間活用
- ・事業運営の支援



・二宮西中学校
・二宮小学校
・山西小学校
・一色小学校
・二宮高校

[仮説]
・町内で一つの種目、大会参加
・小6と中1の交流
・小学校教員が副業で部活指導
・高校生による学習支援事業



二宮中学校

※現在は立地面や規模面で二宮中学校としている。また小中一貫校の構想も目の前にある中で、場所はまだ確定はできない状況。二宮中学校は10種目、二宮西中学校は4種目などと分けて行うことも視野に入れている。

二宮町教育委員会

運営・管理委託

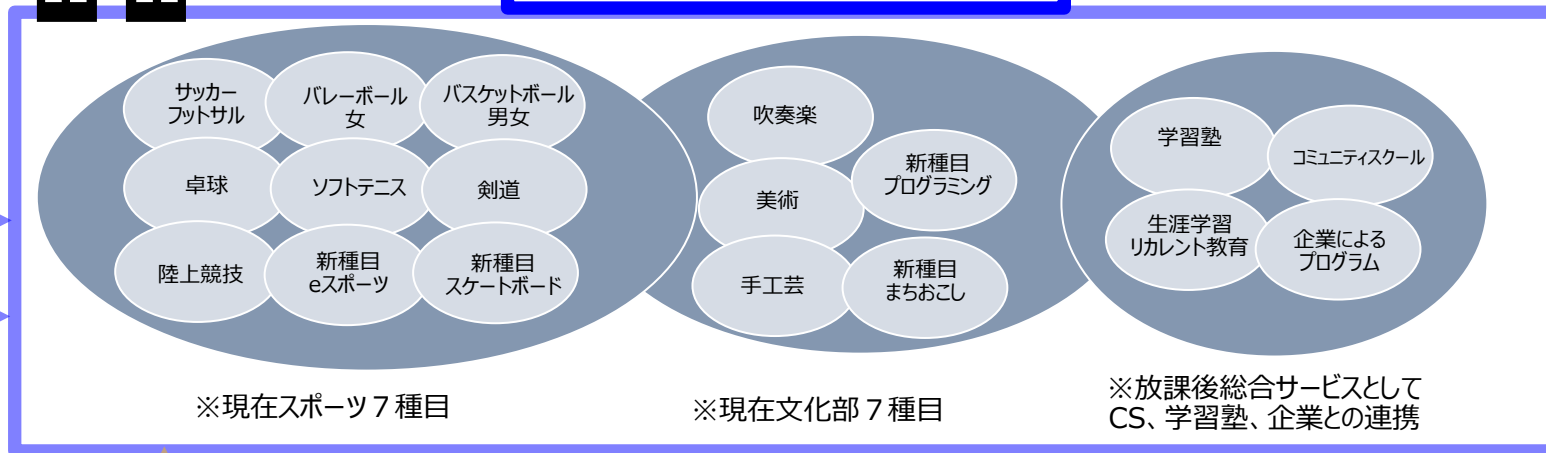


協議会または実行委員会

運営・管理

- ・二宮町役場関連各課
- ・中学校管理職、CS、体育協会
- ・町内商工会等、関係事業者等
- ・近隣地域事業者等

NINOMIYAモデルの構築 二宮地域スポーツクラブ／ 放課後総合サービス



※ラビッツクラブの位置づけ
ラビッツクラブが全て運営ではなく、受け皿の中核となり、他種目団体と一緒に連携をしながら教育委員会、中学校と一緒に進めていく想定。
幼児～高齢者の世代間のタテの交流と各種目や企業とのヨコの連携をする「二宮地域スポーツクラブ」の設立を目指す姿。

※運営、マネジメント方法については二宮町、ラビッツクラブ含めた関係次事業等と今後継続協議を行う。



- 生徒
- ・部活との違い
 - ・エンジョイ志向と競技志向
 - ・会費の支払い



- 地域住民
- ・大人向け健康指導
 - ・リカレント教育、生涯教育
 - ・会費の支払い



寄付・協賛
= 資金調達



企業（地域内外）
テルモ、横浜ゴム、PILOT、信金・・・

- [仮説]
- ・企業版ふるさと納税寄付
 - ・ブランディング
 - ・社会貢献、価値共創（CSRやCSV）

人材派遣と支援

= 人材提供



学習塾
ステップ、明光義塾、トライプラス・・・

- [仮説]
- ・ブランディング
 - ・学習支援事業（厚労省）モデル

CSや他団体との連携

= 資金・人材、町民理解のサポート



町内団体等

- [仮説]
- ・CSとの連携
 - ・二宮町体育協会
 - ・中体連
 - ・人材派遣モデルの可能性

- 町内会
- 自治会
- 保育園、幼稚園
- PTA
- 民生委員

“NINOMIYAモデル”の要件（案）

地域移行に向けた議論結果

① 町からの支援（受益者負担の問題解決）

- 前提条件として、受益者負担の強制を国から通達ができない場合
- ・地域クラブへの運営費用として助成すること。
- ・既存の外部指導員（一つの部活で年間50,000円）の謝金の値上げや派遣元を検討すること。
- ・新たな外部運営員（コーディネーター）を設置し謝金の設定をすること。

② 民間企業からの支援（受益者負担の問題解決）

- ・町内企業からの協賛・協力のために事業に対する理解促進を図る。
- ・企業版ふるさと納税の活用や企業のブランディングや将来のリクルーティングの目的から寄付を募る。

③ 大会問題

- ・各専門種目の協会が中心となり大会やリーグ戦を地区（これまでの地区の見直し）で実施すること
- ・エンジョイレベルと競技レベルの2つのディビジョンに分けること。
- ・地元の企業からの協賛を募り、大会やリーグ戦の運営資金に充当すること。

課題や障壁

青：自分たちでの検討要
赤：国、県単位での検討要

- ・町自体に予算は無く、例えば体育館等施設の指定管理者募集するなど予算捻出の模索が必要。
- ・無料であった部活に対して対価を払う意識改革の困難
- ・受益者負担の可否については保護者から可、否それぞれの意見が出た。部活動の存続が危ない現状を踏まえた場合はどうか。
- ・現在の外部指導員の派遣の見直しが必要である。教員の反応からも効果的ではない。
- ・指導者以外にも、部活の運営でコーディネーターが必要となるが誰が担うのが重要となる。（スケジュール管理、会場調整など）

- ・町内に大きな企業はなく、事業費を捻出するために大きな支援を得ることは現実的に不可能。町外の企業や中郡、西湘エリアでの企業から支援が必要となる。

- ・教員による中体連の関わり方が負担になっている。大会の運営、練習試合の調整など。
- ・生徒自身の希望に合わせた大会の選択肢が少ない。
- ・社会人では民間（協賛がついた）の大会が基本であるが、中学校・高校のカテゴリーではあまりない。

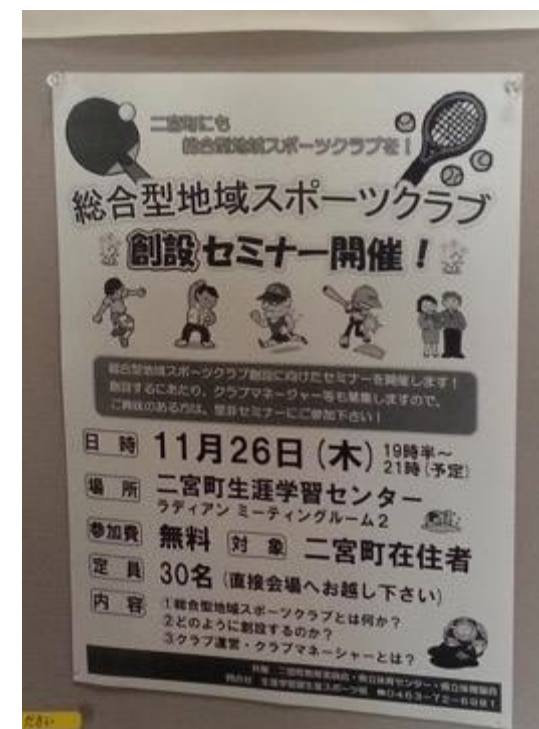
“NINOMIYAモデル”実現のためのロードマップとアクションの方向性（案）

【部活動の地域移行に向けた今後】

- 令和4年度は、5月に文科省から示される部活動の地域移行に関する方針を確認後、必要に応じて「部活動の地域クラブ移行に関する勉強会」の発足の検討を行う。
- 二宮町、ラビッツクラブ湘南、部活動指導員、教員等現在部活動に関わる方を中心としたミニマムスタート。
- 最終的には生徒、保護者、中学校教員、小学校教員、ラビッツクラブ湘南二宮、部活動指導員、他スポーツ団体、コミュニティスクール、地元企業等、ステークホルダーに対して部活動の地域移行の必要性を理解してもらう必要がある。
- 理解して頂いた上で最大の壁であろう、受益者負担（＝予算）に対して建設的な意見を行える。

【ロードマップ実現のために必要なアクション】

- 令和3年度の実証事業の発展的継続の検討。
- ステークホルダーへの理解・浸透が不可欠。
- 種目を現在の部活動指導員の協力を仰ぎ増設できないか検討。
（想定される財源→捻出できるか？）
 - 令和4年度の外部指導員の費用から捻出を想定。
 - 町内の企業へ事業への説明を尽くし、協賛・協力を募る。
 - 町外企業に対し、企業版ふるさと納税制度を活用した寄附勧奨のためのPR展開。



検討後の目指す姿に向けたロードマップ (案)

2022年度

5月方針を受けて二宮町の「部活動の地域移行に関する勉強会」発足の検討

- 令和5年度からの具体的な移行実施計画策定
 - 予算計画
 - 実施受け皿の構築と新たな連携システムの検討
 - 土日の地域移行団体による部活動の実証事業

2023年度

二宮町の中学校部活動の段階的な地域移行開始

- 1種目の地域団体による月2回開催で運営を開始
- 地域団体による複数種目の平日の移行に向けた連携システムの構築
 - 学校との連携
 - 保護者との連携
 - 指導者派遣事業者との連携 等

2024年度

二宮町の中学校部活動の新システムの導入開始

- 3～5種目程度の地域団体による土日及び一部平日を含めた運営開始
- 全種目の地域団体への移行に向けた検討開始
 - 全種目の移行に向けた連携システムの改修検討・構築

2025年度

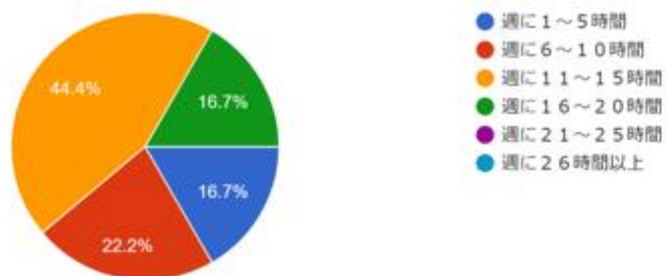
二宮町の中学校部活動の全種目の地域移行及び広域連携に向けた検討開始

- 10種目程度の地域団体による土日及び一部平日を含めた運営を開始
 - 新種目の導入含む
- 全種目の地域団体への移行に向けたシステム構築
 - 2027年度頃の広域連携を視野に検討

Appendix～教員アンケート結果～

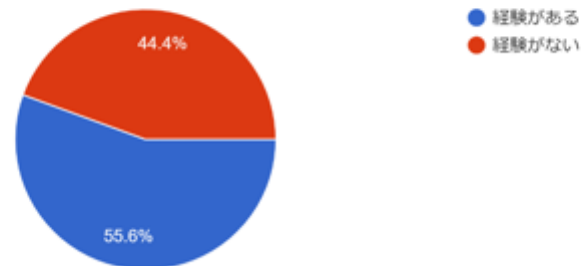
問7 現在、担当の部活動に週に平均でどれくらい関わっていますか。

18件の回答



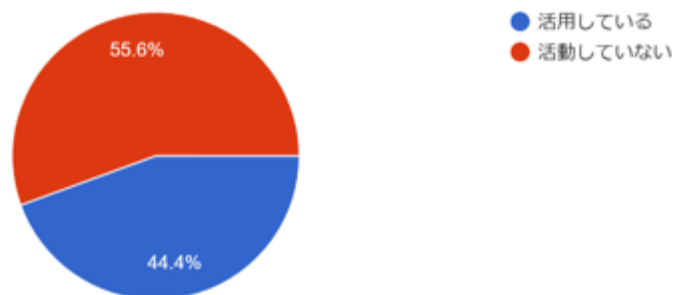
問8 現在、担当をしている部活動は、自分自身が競技者等になった経験のあるものですか。

18件の回答



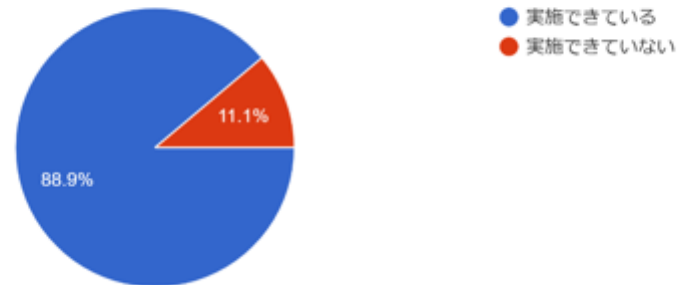
問9 現在、担当をしている部活動の普段の練習や活動に外部指導員制度を活用していますか。

18件の回答



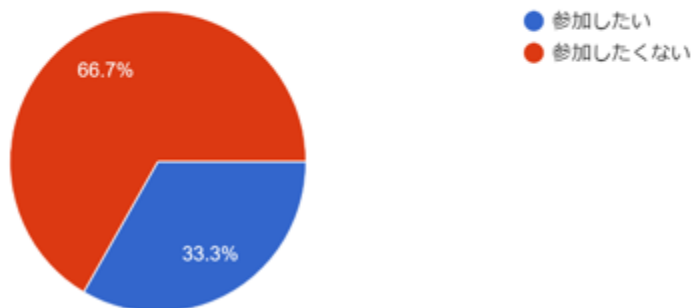
問11 現在、担当している部活動の普段の練習や活動は自校の生徒のみで実施できていますか。

18件の回答



Appendix～教員アンケート結果～

問14 部活動の地域移行にあたり、教員も兼業・...副業として参加できる場合、参加したいですか。
18件の回答



問18 令和5年度からの部活動の段階的な地域移行について賛成ですか。
18件の回答

